

令和4年度  
文化財防災センター  
年次報告書

独立行政法人国立文化財機構  
文化財防災センター

**令和4年度  
文化財防災センター  
年次報告書**



**独立行政法人国立文化財機構  
文化財防災センター**



## 序 文

文化財防災センターの活動も3年目に入りました。センターが掲げる5つの事業も軌道に乗ってきたのではと思います。設立当初、知名度も低く、災害発生時における文化財の被災情報の収集と共有においていくつかの問題がありましたが、都道府県の文化財担当部局の皆さんに文化財防災センターの災害発生時初期対応についてもご理解いただけるようになり、うまく機能するようになってきました。これは、災害時の文化財防災センターの初期活動について、文化庁主催の講習会等で周知させていただける機会をいただいたことによるものです。福島県沖地震、石川県能登半島地震、豪雨による土石流等による文化財の被害状況調査に加え、火災等の被害状況の現地調査にもおもむき、災害時におけるセンターの活動も活発化してきています。被災した石造文化財の修理に、縣市と当センターとが連携して取り組むという新たな枠組みでの活動もさせていただいております。

令和4年度は、研修や講演会、シンポジウムの開催にも力を入れました。研修につきましては、新たに「水損書画の初期処置ワークショップ」と「被災文化財の一時保管場所のゾーニングに関するワークショップ」を開催しました。また、鹿児島県立埋蔵文化財センターとの共催で「出前研修」もさせていただきました。今後も新たな研修メニューの充実を図っていきたいと思っております。この他、講演会及びシンポジウムも4件開催しました。文化財防災の様々な話題を多くの皆様にお伝えできるような企画をこれからも考えていきたいと思っております。

いっぽう、令和4年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻による多くの文化財の破壊と略奪が報じられています。また、令和5年2月に発生したトルコ・シリア両国にまたがる大地震の被害はきわめて甚大な状況となっています。文化財防災センターの国際協力のあり方も早急に検討していかなければなりません。まだまだ取り組んでいかなければならない課題は山積しています。令和4年度の年次報告書をご一読いただき、忌憚のないご意見をお寄せいただきますとともに、文化財防災センターに対しまして、今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

文化財防災センター長  
高妻 洋成

# 目次

1	文化財防災センターの体制と事業概要	07
1.1	文化財防災のための体制	07
1.2	文化財防災センターの事業概要	08
1.3	文化財防災救援基金	09
2	事業報告	10
2.1	地域防災体制の構築	10
2.1.1	都道府県における文化財防災の情報集約	10
2.1.2	近畿ブロック	11
2.1.3	中国・四国ブロック	12
2.1.4	北海道・東北ブロック	14
2.1.5	関東・甲信越ブロック	15
2.1.6	東海ブロック	17
2.1.7	北陸ブロック	18
2.1.8	九州ブロック	19
2.2	災害時ガイドライン等の整備	21
2.2.1	救援活動等における安全対策ガイドラインの策定	21
2.2.2	被災歴史的建造物調査事業の推進	22
2.2.3	無形文化遺産の防災	22
2.3	レスキュー及び収蔵・展示における技術開発	24
2.3.1	リスク研究会	24
2.3.2	施設環境	24
2.3.3	収蔵施設（防火対策）	25
2.3.4	収蔵施設（地震対策）	26
2.3.5	応急処置	26
2.3.6	けいはんなオープンイノベーションセンターにおける一時保管体制の構築	27
2.4	普及啓発	28
2.4.1	広報、活動報告	28
2.4.2	研修及びワークショップ	29
2.4.3	講演会及びシンポジウム	31
2.4.4	文化財防災に関する普及啓発書刊行の企画	36
2.4.5	外部主催事業への協力、出展	36

2.5	文化財防災に関する情報の収集と活用	41
2.5.1	文化財が被災した災害事例及び文化財防災の先進事例に関する情報収集	41
2.5.2	文化財防災総合データベースシステムの構築	43
2.5.3	歴史災害痕跡に関するデータ収集並びにデータベース等の運用及び活用の推進	43
3	災害時の支援	45
3.1	令和元年東日本台風：川崎市市民ミュージアム被災収蔵品レスキュー活動に係る支援	45
3.2	令和3年11月二宮神社（新潟県佐渡市二宮）火災への対応	47
3.3	令和4年3月16日福島県沖を震源とする地震への対応	48
3.4	令和4年6月19日能登地方を震源とする地震への対応	49
3.5	重要文化財五十嵐家住宅（新潟県東蒲原郡阿賀町）被災状況調査	51
4	受託事業	52
4.1	被災美術工芸資料等安定化処理及び修理業務（陸前高田市受託）	52
4.2	令和4年度文化財防災のための詳細資料保存に係る調査等業務（文化庁受託）	53
5	関係機関との協議、事業報告	55
(1)	文化遺産の防災に関する有識者会議	55
(2)	文化遺産防災ネットワーク推進会議	55
(3)	文化財防災センター事業報告会	56
(4)	文化庁・文化財防災センター協議会	57
6	文化財防災救援基金	58
7	資料編	59
7.1	委員の委嘱	59
7.2	学会及び研究会等の発表	59
7.3	論文等の発表	61
7.4	運営会議及びセンターミーティング	62
7.5	活動の記録	63
7.6	職員名簿	72

---

## 凡例

- ・各事業を担当した施設を次のように表記した。

文化財防災センター本部 **本 部**

東京文化財研究所 **東文研**

東京国立博物館 **東 博**

奈良文化財研究所 **奈文研**

京都国立博物館 **京 博**

奈良国立博物館 **奈良博**

九州国立博物館 **九 博**

- ・本報告書の編集は鷲頭桂、中島志保が担当した。
-

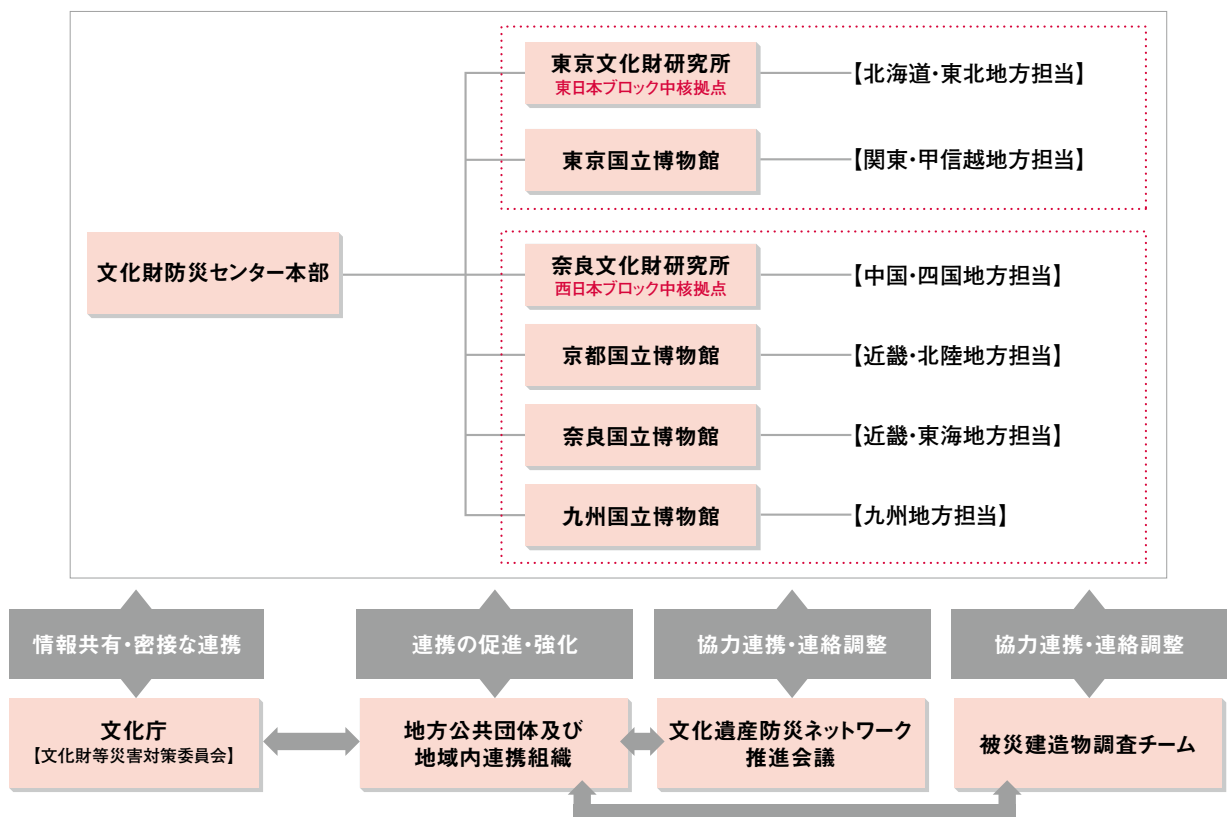
# 1. 文化財防災センターの体制と事業概要

## 1.1 文化財防災のための体制

独立行政法人国立文化財機構の本部施設である文化財防災センターは、全体を統括するセンター本部を奈良においている。国立文化財機構内の6施設（奈良文化財研究所、東京文化財研究所、東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）にもセンター職員を配置し、地域防災体制の構築、災害時ガイドライン等の整備、レスキュー及び収蔵・展示における技術開発、文化財防災を促進するための普及啓発、文化財防災に関係する情報の収集と活用の5事業を展開している。また各施設においては、センター併任職員によって構成されるプロジェクトチームがあり、施設間の連携による調査研究や技術開発、担当地域の地域防災体制の構築等の事業を行なっている。

大規模災害発生時には、国内を東日本ブロックと西日本ブロックに分け、東京文化財研究所が東日本の、奈良文化財研究所が西日本の、それぞれ中核拠点となる。

### 文化財防災のための体制



(図1) 文化財防災のための体制



## 1.2 文化財防災センターの事業概要

文化財防災センターが掲げる3つの使命は次の通りである。

- ・文化財の被害を最小限にするための減災の取り組み
- ・被災した文化財をできるだけ迅速に救援するための体制構築と技術開発
- ・災害発生時の文化財の救援活動に対する支援

この3つの使命を果たすため、平常時より5つの柱（図2）のもと事業を展開するとともに、災害発生時には、文化庁及び「文化遺産防災ネットワーク推進会議」参画団体、「災害時における歴史的建造物の被災確認調査および技術支援等に関する協力協定」締結団体等と連携し、都道府県文化財保護行政主管課を中心とした地域のネットワークによる被災文化財への対応を支援することとしている。

	<p><b>① 地域防災体制の構築</b> 都道府県内の文化財関連団体間の連携体制の構築・促進、地域ブロック内における広域連携促進</p>		<p><b>② 災害時ガイドライン等の整備</b> 防カビのガイドラインなど、文化財類型毎や収蔵施設単位での活動ガイドラインの整備</p>
	<p><b>③ レスキュー及び収蔵・展示における技術開発</b> 展示収蔵の安全対策、修復処置に関する研究、災害時の緊急避難保管環境に関する研究</p>		<p><b>④ 普及啓発</b> 文化財防災意識向上のためのシンポジウム等の開催、及び文化財防災の実践的な研修の実施</p>
	<p><b>⑤ 文化財防災に関する情報の収集と活用</b> 文化財防災総合データベースの構築と、その運用システムの開発</p>		

（図2）文化財防災センター事業概要 5つの柱

## 1.3 文化財防災救援基金

災害発生時の初動に関する経費として、文化財防災センターでは災害対策費を一定額計上している。しかしながら、起こるであろう災害を想定して予算を計上するには限界がある。また、どこまで予算を用意すべきなのかも検討の余地がある。一方、災害時の文化財に対する寄附の申し出について相談を受けることがあり、常に門戸を開く必要性が実感された。

こうしたことから、①緊急事態下での資材の購入や専門家の派遣、救援体制づくり等、迅速な救出対応処置、②被災した文化財の応急処置や修理を行なうための新しい処置法の開発、様々なリスクを視野に入れた技術開発、③地域の住民による修理作業に向けての講習会や地域のお祭り再開への支援等、復旧・復興支援、といった事業の充実を図ることを目的に、文化財防災救援基金を設立し、令和5年3月10日（金）に報道発表、寄付の受付を開始した。

令和4年度の実績については、「6. 文化財防災救援基金」で報告する。

## 2. 事業報告

### 2.1 地域防災体制の構築

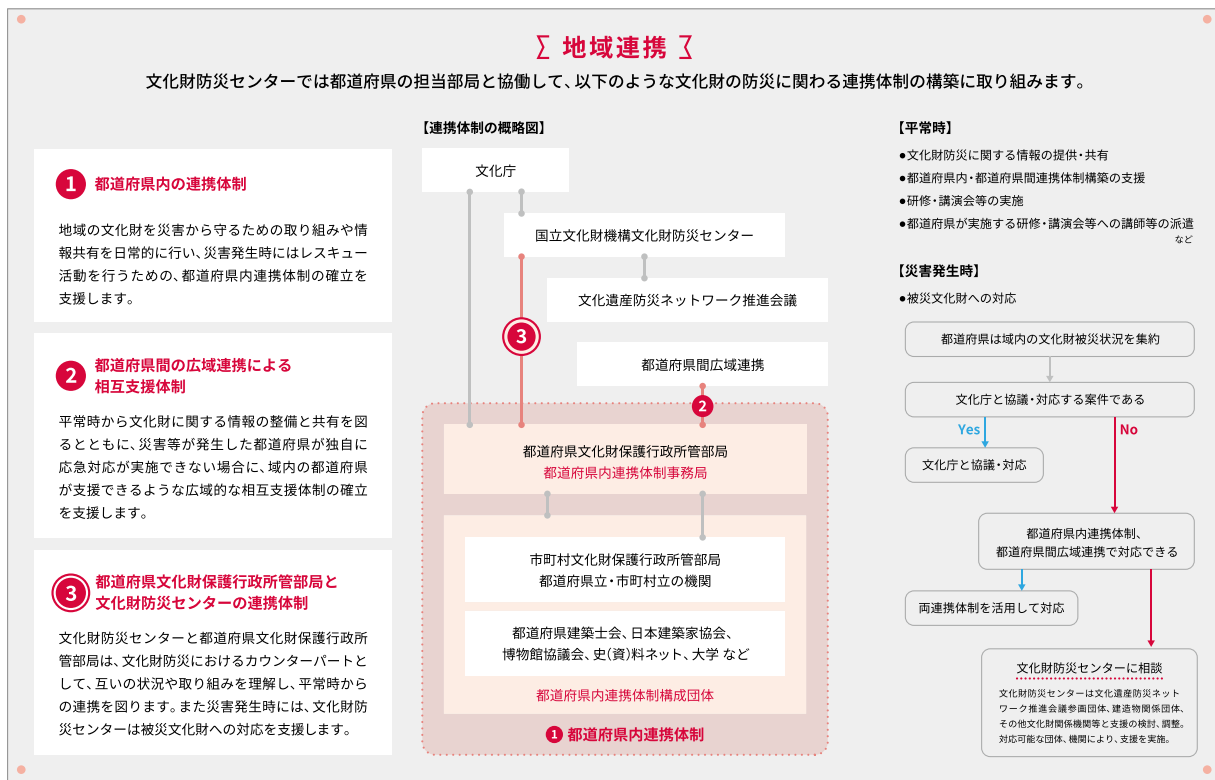
#### 2.1.1 都道府県における文化財防災の情報集約 本 部

##### (1) 各施設が取り組む地域ブロックでのヒアリング及び取り組み状況、課題の共有

当センターの事業には5つの柱があり、その1つが「地域防災体制の構築」事業である（図2）。この事業では、

- ①地域の文化財を守るための日常的な取り組みや情報共有、災害発生時におけるレスキュー活動を行なうための都道府県内の連携体制
- ②都道府県間の広域連携による相互支援体制
- ③都道府県文化財保護行政主管課と当センターとの連携体制

という文化財防災に関わる3つの連携体制（図3）の構築を推進する取り組みを行なっている。①と②については体制構築の支援を、③については文化財防災におけるカウンターパートとして、互いの状況や取り組みを理解し、平常時からの連携を図るとともに、災害発生時には被災文化財への対応を支援することとしている。



(図3) 地域の連携体制構築の概略

これらのヒアリングは、聞き取り項目を標準化した上で各施設が主体となって実施し、都道府県との協議において適切な情報提供ができるよう、ヒアリング内容のセンター内での共有を進めている。各施設の取り組みは、2.1.2.～2.1.8に示す。

また、台風等の発生後、都道府県から文化財等の被害に関する情報提供を受け、被害把握と情報集約を行なった。

## (2) 都道府県文化財保存活用大綱の整理、分析

平成30年の文化財保護法の改正により、都道府県による文化財保存活用大綱の策定等が制度化された。文化庁の指針<sup>\*1</sup>における大綱に記載すべき5つの基本的な事項の1つが「防災・災害発生時の対応」である。具体的には「災害に備えた平時からの救援ネットワークの構築や、被害情報の収集・緊急なレスキュー活動など災害発生時に行う取組などを記載する」こととなっている。大綱にどのような記述がなされ、どのような取り組みが進められるかは、文化財防災を考える上でも非常に重要である。そこで当センターでは、都道府県における文化財の防災体制に関する調査研究の一環として、令和3年度から各都道府県の大綱の記述を整理する作業を行なっている。本調査で集約する情報は、地域連携体制の構築、強化に資するものであり、調査結果については令和5年度末の公開を目指す。

### 【令和4年度の実施内容】

文化財防災センターが文化財保存活用大綱の「防災・災害発生時の対応」に必要と考える項目を、以下の通り再整理し、これに関する大綱の記述及びそれぞれにおける先進的な施策、課題の整理と分析を進めた。

#### ①平常時及び災害発生時の取り組みと体制構築

- ・ 防災の3つの段階（災害予防、災害応急対策、災害復旧・復興）の各段階における取り組み
- ・ 文化財防災に関わる連携体制

#### ②マニュアル作成

#### ③文化財情報の収集と活用

※1：「文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画・保存活用計画の策定等に関する指針」平成31年3月4日 文化庁

[https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/pdf/r1402097\\_10.pdf](https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/pdf/r1402097_10.pdf)

## 2.1.2 近畿ブロック 本 部 京 博 奈良博

### (1) 近畿ブロック6府県との連携体制構築

文化財防災に関わる取り組みや府県内の連携体制構築の状況、課題等について、以下の通りヒアリング調査、協議を行なった。

#### 【ヒアリング調査、協議】

令和4年5月31日（火） 奈良県文化・教育暮らし創造部文化財保護課／奈良県庁

令和4年11月30日（水） 兵庫県教育委員会文化財課／兵庫県庁

令和4年11月30日（水） 奈良県文化・教育暮らし創造部文化財保護課／奈良国立博物館

令和5年1月24日（火） 滋賀県文化スポーツ部文化財保護課／滋賀県庁

令和5年2月27日（月） 大阪府教育庁文化財保護課／大阪府庁

令和5年3月1日（水） 和歌山県教育庁文化遺産課／和歌山県庁

#### 【京都文化財防災対策等連絡会への参加】

京都文化財防災対策等連絡会は、京都府内の文化財保護事業に携わる13団体で構成されており、文化財防災センター本部、京都国立博物館もオブザーバーとして参加している。本連絡会では、文化財緊急災害時情報連絡網の共有、年3回開催の連絡会議等を通じ、京都府内における文化財保護・防災ネットワーク構築の推進を図っている。

第1回：令和4年6月6日（月）／京都府公館

第2回：令和4年11月15日（火）／京都府庁旧本館

第3回：令和5年3月16日（木）／京都府公館

#### (2) 文化財防災に関わるマニュアル作成支援

奈良県文化財保護課と「文化財災害対策マニュアル」の改定について協議した。

また、和歌山県教育庁文化遺産課と、和歌山県文化財保存活用大綱に基づき作成中の「文化財災害対応マニュアル」について意見交換、協議を行なった。

### 2.1.3 中国・四国ブロック 本 部 奈文研

#### (1) 中国・四国ブロック9県との連携体制構築

文化財防災に関わる取り組みや県内の連携体制構築の状況、課題等について、ヒアリング調査、協議を行なった。また、研修会での講演等を行なった。

##### 【ヒアリング調査、協議】

令和4年6月21日（火） 島根県教育庁文化財課

令和4年9月26日（月） 広島県教育委員会文化財課

令和4年10月13日（木） 鳥取県地域づくり推進部文化財局文化財課

令和4年11月21日（月） 香川県教育委員会生涯学習・文化財課

令和4年11月22日（火） 徳島県未来創生文化部文化資源活用課

##### 【研修会参加、講演】

令和4年9月27日（火） えひめ文化財防災対策研修会 参加

令和4年11月16日（水） 令和4年度岡山県文化財等救済ネットワーク研修会 参加

令和4年12月8日（木） しまねミュージアム協議会研修会にて講演、タイトル「文化財防災センターの取り組み」

令和5年3月24日（金） 徳島県「令和4年度第2回埋蔵文化財担当専門職員等研修会」（Web開催）にて講演、タイトル「文化財の防災について」



## (2) 令和4年度中国・四国地方の文化財防災に関する研究協議会の開催

平成30年の文化財保護法の改正により、都道府県による文化財保存活用大綱の策定等が制度化された。すでに中国・四国地方全県で文化財保存活用大綱は策定済みとなっており、大綱の「防災・災害発生時の対応」の記載事項に実効性を伴わせるための段階に入っていると言える。そのためには、平常時からの文化財防災に関わるネットワークの構築や地域防災計画での言及、マニュアルの作成等も重要な課題である。今回の研究協議会では、「地域防災計画と文化財の保全」について検討するとともに、各県から県内のネットワーク構築、マニュアル作成、近年の災害対応など文化財防災に関わる取り組みについて報告いただき、情報共有した。

日時：令和5年3月13日（月）10：00～12：25

開催方法：対面（会場／岡山県庁小橋町庁舎）とオンライン（Web会議システム /Microsoft Teams）併用

参加者：中国・四国地方9県の文化財保護行政主管課のご担当者と文化財防災センター、計16名

主催：独立行政法人国立文化財機構 文化財防災センター

内容：

### ①地域防災計画と文化財の保全

講演「『鳥取県地域防災計画』における文化財の位置づけ—その経緯と変遷—」

鳥取県地域づくり推進部文化財局 副局長 中森祥氏

報告「地域防災計画における文化財に関わる記述の変化」

文化財防災センター 中島志保

### ②各県からの報告



(図4) 研究協議会の様子（対面会場）

## (3) 研修会への講師紹介

徳島県文化資源活用課からの依頼を受け、徳島県主催の「令和4年度第2回埋蔵文化財担当専門職員等研修会」（令和5年3月24日（金） /Web開催）について、講師を紹介するとともに、当センターからも「文化財の防災について」というタイトルで講演した。

## 2.1.4 北海道・東北ブロック 東文研

東京文化財研究所では、令和2年度より北海道・東北ブロックにおける文化財防災に関する取り組みや、道県内及び広域での災害対応体制の構築状況の把握を目的とし、担当ブロック内の文化財主管課等を対象にヒアリングを実施している。令和4年度は、令和4年3月16日に発生した福島県沖地震への被災対応について協議を行なうなかで進めるかたちを中心となった。また、道県からの依頼を受け、各道県で行なわれる文化財防災に関わる会議や委員会への参加及び事業報告を実施した。詳細な実施状況は以下の通りである。

### (1) 道県を対象としたヒアリング

- ・令和4年11月22日（火） 福島県教育庁文化財課／ Web 会議
- ・令和4年12月6日（火） 宮城県教育庁文化財課／ Web 会議

### (2) 道県主催の会議及び委員会への出席

- 令和4年度「文化財に係る災害時の相互応援に関する協定」連絡会議（福島県）
  - ・日程・場所：令和4年7月26日（火）福島県庁／ Web 会議
  - ・議題：1 「文化遺産マップを活用した災害対応」蝦名裕一氏（東北大学災害科学国際研究所准教授）  
2 「文化財防災センター発足後の取り組み」後藤知美（文化財防災センター研究員）  
3 情報交換
  
- 文化財日常管理・防災ハンドブック（美術工芸品編）作成プロジェクトチーム編集会議（山形県）
  - ・日程・場所：令和4年9月30日（金）東北芸術工科大学本館6階第2会議室
  - ・議題：1 作成の目的について  
2 内容と作成体制について  
3 編集方針や進め方について  
4 今後のスケジュール等について
  
  - ・日程：令和5年3月15日（水）東北芸術工科大学本館教室
  - ・議題：1 第一原稿案の共有と意見交換  
2 今後のスケジュール等について
  
- 岩手県版文化遺産防災マップ運用講習会（岩手県）
  - ・日程・場所：令和5年1月27日（金）岩手県立博物館 講堂
  - ・議題：1 「地域連携で文化財をまもる」中島志保（文化財防災センター研究員）  
2 「岩手版文化遺産防災マップの活用可能性について」  
蝦名裕一氏（東北大学災害科学国際研究所准教授）  
3 情報交換

## 2.1.5 関東・甲信越ブロック 東 博

### (1) 関東・甲信越10都県の文化財担当部局との連携体制構築

各都県における文化財防災施策の推進状況や課題等について把握するため、下記の通り訪問調査を実施した。

#### 【訪問日・訪問先】

令和4年5月19日（木）	埼玉県教育局 文化資源課
令和4年5月24日（火）	神奈川県教育局 生涯学習部 文化遺産課
令和4年5月27日（金）	群馬県地域創生部 文化財保護課
令和4年6月8日（水）	茨城県教育庁 総務企画部 文化課
令和4年6月14日（火）	新潟県観光文化スポーツ部 文化課
令和4年6月16日（木）	東京都教育庁 地域教育支援部 管理課
令和4年6月17日（金）	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課
令和4年6月23日（木）	長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課
令和4年6月27日（月）	栃木県教育委員会事務局 文化財課
令和4年7月8日（金）	山梨県観光文化部 文化振興・文化財課

関東・甲信越ブロックでは、当センターとの連絡窓口担当者の変更が6県で発生しており、改めてこれまでの活動等について情報共有を行なった。年度初めから新型コロナウイルス感染症の対応に関する応援業務などが発生した県も複数あり、今年度もコロナ禍の影響が続いていた。そのような状況ではあるが、各都県で様々な文化財防災に関する施策が取り組まれていた。

群馬県では、令和4年3月に「群馬県文化財防災ガイドライン」を作成しており、「群馬県文化財保存活用大綱」で掲げられた文化財防災の推進に向けて、より具体的な方針や取り組みを示している。また、このガイドライン作成時に県危機管理課との関係構築が進んだ結果として、5月に実施された「群馬県災害対策本部図上訓練」に文化財保護課も今年度から参加している。水害をテーマとした今回の図上訓練では、統合版 GIS を活用しながら被害想定などを行っており、前述のガイドラインに基づく災害発生時の対応を検証する機会となった。このように関係機関との訓練、振り返り、成果と課題の検証という過程を繰り返すことで、ガイドライン等がより最適化されることは言うまでもなく、県内の文化財防災体制の構築に寄与するものとして注目される取り組みである。

新潟県では、「新潟県文化財保存活用大綱」に基づき、災害対策の基本的な方針を示すことを目的とした「文化財レスキュー指針（仮）」の策定に取り組んでいるところである。そのほか、栃木県や山梨県でも文化財防災マニュアルの作成を検討しているところである。

埼玉県では、県内の文化財保護団体との連携推進を通じて、県内における文化財防災体制の強化を図ることを目的とした「県内会合」が開催され、当センターからも参加した。参加団体は、埼玉県文化資源課、埼玉県文化財保護協会、埼玉県博物館連絡協議会、埼玉県地域史料保存活用連絡協議会の4団体で、主に災害発生時の被害情報照会に関する連携について協議された。同様に、群馬県でも連携体制の構築を目的とした県内関係団体との協議が行なわれている。



## 【開催日・開催場所】

令和4年11月24日（木） 埼玉県立歴史と民俗の博物館

令和5年3月17日（金） 群馬県立文書館

## (2) 文化財保存活用地域計画に関するヒアリング調査

平成31年4月に改正文化財保護法が施行されたことにより、市町村において文化財保存活用地域計画の作成が盛んに取り組まれている。当該計画には文化財防災に関する施策のみならず、地域に所在する文化財の把握やその中長期的な保存活用のアクションプランが示されており、各地域における防災対策や災害時対応と密接な関係にある。今年度は、下記の6市を訪問し、ヒアリング調査を実施した。

## 【訪問日・訪問先】

令和4年10月7日（金） 大田原市教育委員会事務局 文化振興課 文化財係

令和4年12月7日（水） 日立市郷土博物館

令和4年12月16日（金） 伊勢原市教育委員会 教育総務課 文化財係

令和4年12月22日（木） 富里市教育委員会 教育部 生涯学習課

令和5年2月2日（木） 白岡市教育委員会 生涯学習部 学び支援課

令和5年2月8日（水） 秩父市教育委員会 文化財保護課

防災・防犯設備の整備、消防及び警察との連携、文化財の防災・防犯パトロール（巡視活動）といった措置が複数の市で検討されていた。また、「日立市民文化遺産」や「白岡遺産」などのように、市民が主体となり地域の文化遺産を見出し・守り・伝えるという活動が多く各市で取り組まれていた。そのほかにも、大田原市では那須資料ネットと「災害時に被災した歴史文化資料の救出・保全に関する覚書」を締結し、災害時の資料救出・保全に関する連携体制を構築している。また、白岡市では「白岡市災害廃棄物処理計画」に「文化財」を含む「思い出の品等」の取り扱いに関して明記することで、災害ごみへの混入防止、適切な回収及び引渡しの実現が目指されている。

## (3) 埼玉県立博物館等施設における収蔵資料防災マニュアル策定に係る指導

埼玉県では、県立博物館等9施設において収蔵資料に対する防災マニュアルの策定を順次進めている。当該マニュアルの検証作業に関して、下記の項目について依頼を受けた。

1. 県立各館施設における防災マニュアル作成作業時の懸案事項に対する助言、情報提供
2. 県立各館施設で策定した防災マニュアルに対する問題点の指摘並びに指導、助言

今年度は、以下の5施設の防災マニュアル策定作業への指導・助言、それに伴う実地検証を行なった。

## ●埼玉県立川の博物館

マニュアル検証期間：令和4年6月8日（水）～30日（木）

実地検証日：令和4年8月4日（木）

## ●埼玉県立自然の博物館

マニュアル検証期間：令和4年8月3日（水）～9月2日（金）

実地検証日：令和4年9月28日（水）

- 埼玉県立文書館

マニュアル検証期間：令和4年9月27日（火）～10月24日（月）

実地検証日：令和4年12月15日（木）

- さいたま文学館

マニュアル検証期間：令和4年12月5日（月）～令和5年1月12日（木）

実地検証日：令和5年1月31日（火）

- 埼玉県文化財収蔵施設

マニュアル検証期間：令和5年1月18日（水）～令和5年2月20日（月）

実地検証日：令和5年3月2日（木）



(図5) 埼玉県立文書館での実地検証



(図6) 埼玉県立川の博物館での実地検証

## 2.1.6 東海ブロック 奈良博

担当地域の文化財担当者に対して、文化財防災の意見交換を行ない、地域防災体制の現状を把握、連携体制強化に努めた。

### 【日程・内容】

- 令和4年6月8日（水）岐阜県環境生活部県民文化局伝承文化課

担当地区変更に伴う京都国立博物館からの引継ぎ、並びに文化財の地域防災体制に関する意見交換や協議。

- 令和4年10月4日（火）三重県教育委員会事務局社会教育・文化財保護課並びに三重県環境生活部文化財振興課

文化財防災・文化遺産防災ネットワークに関する意見交換、文化財防災マニュアルに関する協議。

- 令和5年2月3日（金）静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化財課

文化財防災に関する意見交換と文化財防災マニュアルに関する協議等。



(図7) 三重県との協議の様子



(図8) 静岡県との協議の様子

### 2.1.7 北陸ブロック 京博

北陸ブロックにおける地域防災体制の状況把握及び防災ネットワークの構築の推進を目的とし、文化財保護に関わる諸団体へのヒアリング調査等を下記の通り実施した。

#### 【日程・内容】

- 令和4年6月3日（金） 令和4年度福井県文化財保護行政担当者会議出席
- 令和4年7月8日（金） 福井県勝山市商工文化課文化財活用係との文化財保存活用地域計画策定に向けた協議（オンライン）
- 令和4年10月25日（金） 令和4年6月19日（日）に発生した能登地方を震源とする地震における珠洲焼被災状況調査（珠洲焼資料館、珠洲焼陶芸センター）
- 令和4年12月6日（火） 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館との文化財防災体制に関する協議
- 令和5年1月31日（火） 富山県教育委員会生涯学習・文化財室との文化財防災体制に関する協議



(図9) 富山県教育委員会生涯学習・文化財室との協議の様子

## 2.1.8 九州ブロック 九 博

### (1) 九州・山口ミュージアム連携事業

九州・山口ミュージアム連携事業（通称、九山）は、各県共通の広域的課題に対して共同して政策を作り実行する九州地方知事会政策連合の一項目であり、平成18年より各県の知事部局や教育庁（博物館及び文化財所管部局）が共同で取り組んでいる。今年度は共同事業ワーキング会議（担当者レベル会議）2回、検討会議（各県担当課長会議）1回が開催され、九州国立博物館はオブザーバーとして出席した。なお、九山実行委員会は、文化遺産防災ネットワーク推進会議の参画団体の1つである。

#### ●第25回共同事業ワーキング会議

日程・場所：令和4年6月1日（水）宮崎県庁

- 議題：1. 佐賀県地域防災計画における文化財の位置づけについて～特徴と課題～  
（佐賀県文化・観光局文化課文化財保護室）
2. 熊本県地域防災計画における文化財の位置づけについて～特徴と課題～  
（熊本県教育庁教育総務局文化課）
3. 文化財防災センターと災害時における被災文化財の救援支援  
（文化財防災センター）

議事：佐賀県及び熊本県から各県地域防災計画における文化財の災害対策の記載状況、その特徴や課題が報告された。また当センターからは建築4団体と締結した「災害時における歴史的建造物の被災確認調査および技術支援等に関する協力協定書」と救援支援の仕組みについて紹介した。

#### ●第26回共同事業ワーキング会議

日程・場所：令和4年9月29日（木）かごしま県民交流センター

- 議題：1. 大分県地域防災計画における文化財の位置づけについて～特徴と課題～  
（大分県教育庁文化課）
2. 宮崎県地域防災計画における文化財の位置づけについて～特徴と課題～  
（宮崎県教育庁文化財課）

議事：九山事業の今年度活動の報告及び大分県、宮崎県から各県地域防災計画における文化財の災害対策の記載状況、その特徴や課題が報告された。また、前回センターが紹介した建造物調査の被災調査を、市町村の担当者会議で報告した県から、「詳しい事例紹介があるとセンターに相談しやすい」という意見が寄せられた。

#### ●第27回検討会議

日程・場所：令和5年1月31日（火）山口県庁

- 議題：1. 令和4年度文化遺産防災ネットワーク推進会議報告
2. 来年度以降の取り組みについて

議事：令和4年度に2回行なわれた文化遺産防災ネットワーク推進会議の報告があった。また、令和2年度よりワーキング会議で行ってきた各県の地域防災計画における文化財の位置づけの検



証が令和5年度で一巡したことから、各県の特徴をまとめて完了する予定である。そのため、九山事務局より、令和6年度以降に九山で共同して取り組むべき事業について意見を求めたいと提案があった。これを受けて、各県から、博物館法改正への対応や文化財防災の取り組みに関する情報共有、学芸員のスキルアップ研修の必要性などがあげられ、また県を横断した情報発信の在り方などについて議論された。次年度中に今後の方針を確定することとなった。

## (2) ヘリテージマネージャーとの連携体制構築

九州国立博物館では、熊本地震や北部九州の豪雨災害に係る救援活動の経験を通して、動産、不動産双方にまたがる文化財防災体制の構築の必要性を痛感した。そこで、歴史的建造物の保存活用や被災建築物の調査・復旧の技術的指導助言を担うヘリテージマネージャーとの連携体制を強化し、講習会への講師派遣等による関係構築に努めている。

### ●災害発生時の建造物調査の実施例についてのヒアリング

日程・場所：令和4年8月16日（火）九州国立博物館

出席者：中島孝行氏（福岡県建築士会まちづくり委員会）、小泉恵英、木川りか（九州国立博物館）、高妻洋成、小谷竜介、中島志保、鷲頭桂（文化財防災センター）

議事：福岡県建築士会まちづくり委員会・中島孝行氏より、平成28年熊本地震における九州ブロック会所属のヘリテージマネージャーによる建造物被害調査の活動について情報提供を受けた。①地震発生から文化財ドクター派遣事業が始まるまでの経緯、②九州では地震の前から相互応援に関する協定書（応援体制）が締結されており、平成24、25、26年に模擬訓練を行ない、熊本地震もこの協定に則って実施したこと、③文化財ドクター事業における建築士会、建築学会、建築家協会の協力体制などについてご教示いただいた。



(図10) ヒアリングの様子

### ●令和4年度ヘリテージマネージャーのための「地域文化財建造物保存修理技術スキルアップ講習会」への講師派遣

日程・場所・講師：令和4年10月29日（土）かごしま国際交流センター、木川りか

### ●福岡県建築士会ヘリテージマネージャー・ヘリテージサポーター第6期養成講習会への講師派遣

日程・場所・講師：令和5年1月21日（土）八重洲博多ビル、木川りか

### (3) 鹿児島県立埋蔵文化財センター・文化財防災センター共催『文化財を災害から守る—現状と課題—』（令和4年度埋蔵文化財技術研修講座）の開催

日程・場所：令和5年1月19日（木）鹿児島県立埋蔵文化財センター

主催：鹿児島県立埋蔵文化財センター、文化財防災センター

内容：講義1「文化財を災害から守る」 高妻洋成

講義2「平成28年熊本地震における文化財レスキュー」 小泉恵英

講義3「水損紙資料のレスキューと応急処置」 高妻洋成

実技「水損紙資料の応急処置ワークショップ」 中島志保

受講者数：鹿児島県内市町村文化財担当者32名



(図11) 講義



(図12) 実技

### (4) 文化財防災マニュアル策定にかかる助言

福岡市は「福岡市の文化財の保存活用に関する基本方針」（平成31年3月策定）に基づき、令和5～9年度の5年間に取り組む文化財の保存と活用に関するアクションプランとして、令和4年6月に「福岡市文化財保存活用地域計画」を作成した。福岡市は、同地域計画において、文化財や文化財関連施設等にかかる災害対応マニュアルの策定を重点施策の1つにあげている。当センターは福岡市より依頼を受け、記載内容に関する助言、資料提供を行なった。

## 2.2 災害時ガイドライン等の整備

### 2.2.1 救援活動等における安全対策ガイドラインの策定 本 部

文化財防災センターでは、救援活動時の作業環境や、一時保管場所構築に係るガイドラインを順次策定することとしている。令和3年度までは、当センター設立に先行する文化財防災ネットワーク推進事業時の取り組みを整理するかたちで進めてきた。令和4年度は、令和5年度以降に取り組む必要があるガイドライン等の内容について検討を行なった。次年度以降、既存の情報を整理し、条件が整っているものについて、順次ガイドラインを定めていく計画である。

## 2.2.2 被災歴史的建造物調査事業の推進 本 部

災害発生時に歴史的建造物の状態調査を行なうため、令和4年3月11日（金）に日本建築学会、日本建築士会連合会、日本建築家協会、土木学会と「災害時における歴史的建造物の被災確認調査および技術支援等に関する協力協定書」を締結した。この協定に基づき、震度5強以上の地震が発生した際は、調査を実施することとなった。同年3月16日（水）発生した福島県沖を震源とする地震は、最大震度6強を記録したことから、協定締結5日目にして協定に基づく調査を実施することになったが、協定自体の周知が行なわれていないこともあり、手探りで調査体制を整えた。調査の実際については、3.3を参照されたい。

この地震時の活動を通して、本協定の調査実施の課題がいくつか明らかになった。今年度は、そうした課題を解消するための協議等を行なった。特に、都道府県建築士会を中心としたヘリテージマネージャーが既に作り上げている調査体制との整合に大きな課題があることが明らかになった。また、県ごとの担当者を事前に決めておくことが肝要であるということになり、ブロック単位で担当者の顔合わせ会を開催していくことになった。令和4年度は顔合わせ会を1回開催した。

### 【協議等】

- 令和4年5月16日（月） 日本建築学会災害対策委員会（オブザーバー参加）
- 令和4年8月11日（木） 全国ヘリテージマネージャー協議会関西支部協議
- 令和4年8月16日（火） 福岡県建築士会協議
- 令和4年10月2日（日） 日本建築学会日本建築学会文化財建造物防災体制検討特別委員会シンポジウム「文化財建造物災害調査と復旧の課題」登壇及び協議
- 令和4年11月1日（火） 日本建築学会日本建築学会文化財建造物防災体制検討特別委員会（オブザーバー参加）
- 令和4年11月21日（月） 日本建築士会連合会協議
- 令和4年11月21日（月） 文化庁協議
- 令和4年12月12日（月） 大阪府建築士会協議

### 【担当者顔合わせ会】

北海道・東北ブロック 令和5年1月24日（火）／Web 会議

## 2.2.3 無形文化遺産の防災 東文研

昨年度実施した「無形文化遺産の防災に係る有識者会議」で得られた方針をもとに、全国の無形の文化財のなかから災害によって被害が発生したものを対象に、被害状況や現状調査を実施した。調査にあたっては、各文化財が所在するブロックを担当するセンター各施設の協力を得た。

加えて、近年、災害が頻発している九州地方から熊本県教育庁文化課に御協力をいただき、近年の災害被害についてヒアリングを実施した。調査の詳細は以下の通りである。



### (1) 等覚寺の松会（福岡県京都郡苅田町）

調査実施：令和4年4月16日（土）・17日（日）、6月28日（火）

令和3年8月の大雨によって、福岡県京都郡苅田町に所在する白山多賀神社境内では土砂崩れが発生した。これにより等覚寺の松会を行なう「松庭」が土砂に埋もれ、行事の実施が困難に陥った。調査では、苅田町教育委員会及び行事関係者に、被害発生後の対応についてヒアリングを実施し、無形文化遺産の迅速な被害把握に必要となる作業について整理を行なった。



(図13) 行事関係者へのヒアリング



(図14) 苅田町教育委員会へのヒアリング

### (2) 珠洲焼（石川県珠洲市）

調査実施：令和4年9月6日（火）・7日（水）、10月24日（月）・25日（火）

令和4年6月19日（日）に発生した能登地方の地震によって、石川県珠洲市内で行なわれている珠洲焼制作に被害が生じた。調査は、珠洲市産業振興課・珠洲焼作家で構成される創炎会の協力を得て、被害状況についてヒアリングを実施した。調査の結果、各作家の制作スタイルや制作環境が被害の規模や内容に影響を与えることが明らかとなった。

### (3) お法使祭り（熊本県上益城郡益城町・阿蘇郡西原村・菊池郡菊陽町）

調査実施：令和4年10月29日（土）・30日（日）

お法使祭りを行なう3町村は、平成28年4月に発生した熊本地震により甚大な被害を受けた。行事の中心となる津森神宮も大きな被害を受け、平成28年については一部規模を縮小し「復興祈願祭」として挙行したものの、平成29年・30年は一時中断した。近年、地元の復旧・復興も進み、行事が安定的に行なわれるようになったため、その再開状況について調査を実施した。



(図15) 地震発生時の様子の写真（津森神宮）



(図16) 再開した行事（令和4年度・杉堂地区）



## 2.3 レスキュー及び収蔵・展示における技術開発

### 2.3.1 リスク研究会 本部

文化財に関わるリスクを洗い出し、その対処法について研究開発を行なうためのリスク研究会は、令和4年度は1回（8月9日（火））開催し、今年度より始める研究計画について議論を行なった。本研究会では、施設環境、収蔵施設（防火対策・地震対策）、応急処置をテーマに、2.3.2～2.3.5の取り組みを行なった。

### 2.3.2 施設環境 本部 奈文研 奈良博

被災時に使用する一時保管場所における劣化要因の許容範囲を明確化して、一時保管場所の良好な保存環境の実現のために、以下の調査研究を実施した。

#### (1) 保存環境の整備に関する情報収集

被災時における一時保管場所の環境調査や生物劣化対策など、文化財防災の保存環境研究に関する既往論文や書籍を収集した。

#### (2) 一時保管施設の保存環境調査

実際に運用している一時保管施設や、今後一時保管場所として使用する施設などの保存環境調査を行なった。今年度は、奈良県奈良市の収蔵庫を対象に、文化財害虫生息調査、浮遊菌・落下菌調査、ATP 拭き取り調査、有機酸濃度測定を通年にわたり行なった。また、清掃前後で ATP 測定や浮遊菌・落下菌調査を実施しその比較を行なった。次年度は改善した環境下での調査を予定している。一方で、現在運用している福井県美浜町の廃校を利用した一時保管施設について事前調査を行なった。次年度から文化財害虫生息調査や ATP 拭き取り調査、温湿度測定等の調査を通年にわたり行なう予定である。



(図17) 打合せ風景



(図18) 調査風景（落下菌調査）

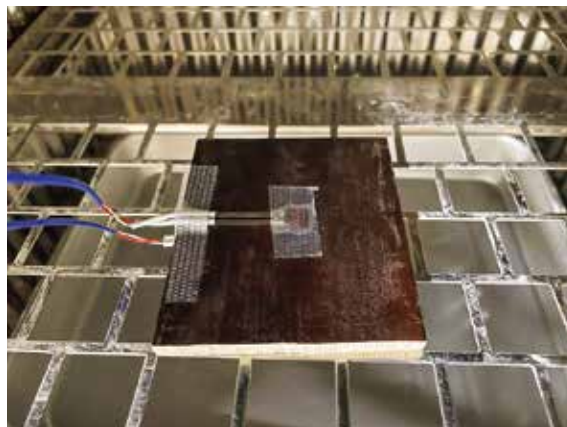
### 2.3.3 収蔵施設（防火対策）

東文研 東博

#### (1) 首里城収蔵庫の火災による美術工芸品劣化に関する研究

令和元年に発生した首里城火災時の収蔵庫内環境と漆工品の劣化、損傷の関係把握を目的とした調査研究を、令和3年度より継続して実施している。

これまで現地の学芸員や建築士を対象にしたヒアリング調査や文献調査を行ない、火災時の収蔵庫内の熱湿気環境を検証するうえでの基礎情報となる、火災による建物の被害状況、消火活動、建築の壁体構成、開口条件、室容積、収蔵庫内の温湿度データ等の情報の整理を進めてきた。令和4年度は、漆手板を用いた実験室実験の実施に向け、実験プロトコルの検討や漆芸家と仕様の協議の上、実験用の手板を作成した。また実験時の環境条件を検討するため、漆工品が保管されていた黄金御殿・寄満収蔵庫の壁体を対象に1次元の熱移動解析を行ない、火災時に想定される収蔵庫の内壁表面温度の推定を行なった。



(図19) 実験プロトコルの検討の様子

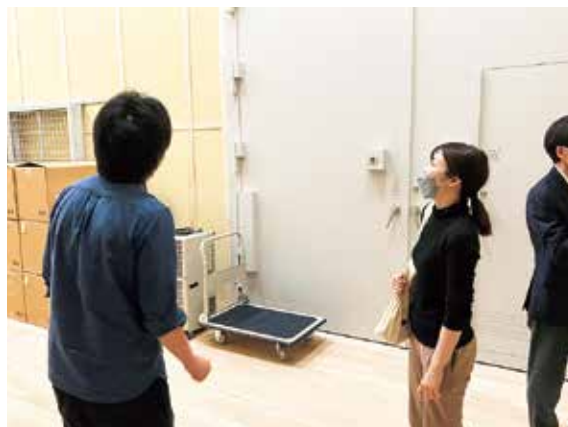
#### (2) 博物館・美術館の消火設備の現状と課題

近年、ブラジル国立博物館、パリ・ノートルダム大聖堂、首里城といった文化遺産関連施設において、火災被害が発生している。また、令和2年度より、文化庁では「世界遺産・国宝等における防火対策5か年計画」を策定し、防火設備や防火体制などの整備・強化を図っている。

本事業では、博物館・美術館を対象として、消火設備等の導入や運用に関する課題把握を目的としたヒアリング調査を行なった。調査を実施した博物館・美術館は下記の通りである。

##### 【調査日・調査先】

令和4年8月3日（水）	東京国立博物館（平成館・本館）
令和4年10月25日（火）	国立西洋美術館
令和4年11月10日（木）	国立アイヌ民族博物館
令和5年2月27日（月）	広島県立文書館



(図20) 国立アイヌ民族博物館での調査

### 2.3.4 収蔵施設（地震対策） 京 博

#### 転倒シミュレーション解析を用いた立体作品の転倒防止対策に関する調査研究

重要な動産文化財を所蔵する社寺が多く存在する関西地域において、公開されている作品等への安全対策を講じること、適切な環境下で保管を行なうことは、文化財の減災のために大いに役立つ。このため、社寺等において公開されている立体作品の転倒防止対策として、転倒シミュレーション解析を用いた調査研究を実施した。

#### 【調査内容】

令和4年度は、神像2軀、仏像1軀の転倒シミュレーションを作成した。神像については、シミュレーション解析を用いた新補框の形状等の違いによる安定性の検証を行ない、仏像についてはシミュレーション解析で得られた地震発生時の挙動パターンから、仏像の安置方法に関する検討を行なった。また、シミュレーション解析の精度向上を目的とし、摩擦係数実験を実施した。

#### 【実施内容】

- 令和4年10月27日（木） 摩擦係数実験実施
- 令和5年1月11日（水） 神像の三次元計測及び調査実施（京都国立博物館文化財保存修理所）
- 令和5年1月26日（木） 転倒シミュレーション解析に関する打合せ（株式会社構造計画研究所・Web会議）
- 令和5年2月2日（木） 仏像の三次元計測及び調査実施（京都市・念佛寺）
- 令和5年3月10日（金） 転倒シミュレーション解析結果報告（株式会社構造計画研究所・Web会議）



（図21）摩擦係数実験の様子



（図22）仏像の三次元計測調査の様子

### 2.3.5 応急処置 九 博

#### 水損固着資料の修復に関する調査研究（灰汁を使用した水損固着資料の処置）

扱いが難しいとされてきた水損固着文書の復旧（修理）方法について、科研費（科研費番号18H03598）を用い、長崎歴史文化博物館の修復技術者などとともに灰汁を用いた洗浄、修理方法について調査してきた。その結果、灰汁の有効成分が炭酸カリウムであることが改めて明らかになり、和紙や酸性紙などの紙に与える影響や、固着文書を洗浄によって安全に剥がす効果について検討することができた。今年度は、文化財防災センター職員が長崎歴史文化博物館を訪問し、実際の処理の様子を撮影記録するとともに、処置について意見交換を行なった。



今後は、作業経験者や紙資料の修復家との意見交換を通して、この方法の利点や問題点及び注意点を明確にし、被災した大量の固着文書に対する本方法の導入の可能性について検討する。

- 日時・場所：令和4年7月29日（金）長崎歴史文化博物館
- 出席者：富川敦子氏、久保憲司氏（以上、長崎歴史文化博物館）、石尾和貴氏（長崎県文化振興・世界遺産課）、河野一隆、木川りか、白井克也、渡辺祐基（九州国立博物館）、芳賀文絵（東京文化財研究所）、浜田拓志（文化財防災センター客員研究員）、中島志保、鷲頭桂（文化財防災センター）



(図23) 灰汁の pH 測定風景



(図24) 水損固着資料

### 2.3.6 けいはんなオープンイノベーションセンターにおける一時保管体制の構築

本部 奈文研 京博 奈良博

非常災害時に活用できる非常用収蔵庫を平時から整備し、試験的に運用を行なうことにより、緊急時における被災文化財等の一時保管環境・受託等に係る体制の在り方に関して検証する。具体的には、けいはんな学研都市にあるけいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）内の二つの収蔵庫を京都府より借り受け、収蔵庫内の整備・維持管理等を通して、前記課題に係る調査研究を進めている。また、令和2年7月から、知恩院塔頭良正院本堂の保存修理工事に伴う襖絵の緊急避難に関する調査研究の一環として、襖絵の一時保管を継続して行なっている。

#### 【令和4年度の活動】

- 令和4年6月30日（木） 良正院本堂襖絵の令和4年度修理作品の搬出
- 令和4年10月14日（金） 京都国立博物館館蔵品の搬出
- 令和5年2月15日（水） 収蔵庫浮遊菌・付着菌調査の実施
- 令和5年2月27日（月） 良正院本堂襖絵の令和4年度修理作品の搬入
- 通年 KICK 収蔵庫内虫害調査・温湿度データの回収・清掃
- 通年 外部委託による KICK 収蔵庫内の環境管理



(図25) 修理作品の搬入作業



(図26) 温湿度データ回収作業の様子

## 2.4 普及啓発

### 2.4.1 広報、活動報告 本 部

#### (1) ウェブサイトの運用

センターウェブサイト (<https://ch-drm.nich.go.jp/>) に、災害発生時の情報提供依頼や文化財防災に関するイベント（講演会、シンポジウム、研修）の開催情報を掲載し、センター刊行物 PDF を公開した。

##### ・アクセス状況

	2022年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2023年1月	2月	3月	合計
訪問数	1,083	1,274	1,550	1,225	1,612	1,596	1,664	2,012	1,741	1,346	1,328	1,680	18,111
閲覧数	7,632	8,821	9,889	6,575	9,161	7,853	16,133	10,832	9,207	5,844	5,010	5,010	101,967

#### (2) 公式 YouTube チャンネルの運用

YouTube の公式チャンネルを運用し、講演動画などを公開している。令和4年度は、令和5年1月26日（木）に開催した文化財防火デートークイベント「文化財防火デー2023トークイベント『京都における文化財防災ネットワークの構築を目指して』」を公開した。



(図27) ウェブサイトトップページ



(図28) 文化財防火デートークイベント動画

#### (3) 文化財防災センターパンフレット（英語版）の作成

諸外国の関係機関・団体等に対して、当センターの活動を紹介することを目的として、英語版の概要パンフレットを作成した。また、当センターウェブサイト上で PDF を公開した。



(図29) 文化財防災センターパンフレット (英語版)



#### (4) 年次報告書の刊行

令和3年度年次報告書を令和4年6月に刊行し、関係各所に送付するとともに、報告書のPDFデータをセンターウェブサイトで公開した。

### 2.4.2 研修及びワークショップ

本部 九博 東文研

#### (1) 学習管理システムの導入・環境構築

研修事業の充実を図るため、学習管理システムの導入・環境構築を進めた。

#### (2) ワークショップの開催：「水損書画の初期処置ワークショップ」

日程・場所：令和4年11月2日（水）奈良文化財研究所研修用実験室

内容：講義1「災害とレスキュー」高妻洋成

講義2「書画の構造、修理とレスキュー活動—装演分野の文化財—」

池田和彦氏（国宝修理装演師連盟）

実技「水損書画の初期処置」

池田和彦氏（国宝修理装演師連盟）、森田健介氏（国宝修理装演師連盟）、鷲頭桂

主催：文化財防災センター

共催：九州国立博物館

協力：一般社団法人 国宝修理装演師連盟

受講者数：都道府県文化財担当職員6名（抽選による）

内容：過去の文化財救援活動では、古文書や書籍などの紙資料が比較的早期に応急処置をされるのに対して、掛軸や巻物などの古書画類は、取扱いへの不安から処置が後回しになる傾向がある。本ワークショップでは、文化財防災の現在と課題に関する概論を導入とし、日本の伝統的な書画の構造や基本的な取扱いを学んだ上で、水損した掛軸や巻子に触れ、被災書画の初期処置のノウハウを習得することを目標とした。



(図30) 会場風景



(図31) 水損掛軸の開披

### (3) ワークショップの開催：「被災文化財の一時保管場所を考える一人と資料の安全を両立するゾーニング」

日時・場所：令和4年12月16日（金）東京文化財研究所

内容：講義1「一時保管場所とは一整備事例から見たその役割」森井順之氏（文化庁）

講義2「文化財レスキュー活動におけるカビの問題と公衆衛生上の対策」

高鳥浩介氏（NPO 法人 カビ相談センター）

講義3「平時の博物館におけるゾーニングと浮遊菌・付着菌」間瀬創氏（文化財活用センター）

グループワーク「被災文化財の一時保管場所の整備計画」

水谷悦子、森井順之氏、高鳥浩介氏、間瀬創氏

- a. 浮遊カビの測定方法・汚染度に応じた防護具について
- b. 気流調査
- c. グループディスカッション
- d. 発表・講師コメント

主催：文化財防災センター

共催：東京文化財研究所

受講者数：12名（抽選による）

内容：本ワークショップは、一時保管場所の整備の初期段階において、被災資料が健全な資料に影響を与えないこと、資料から飛散するカビが作業員や施設の利用者の健康に影響を与えないという初期目標を達成するために必要なゾーニングの知識や現場での実践の方法を学ぶことを目的とした。グループワークでは座学で得た知識や環境調査の結果をもとに受講生が一時保管場所の整備計画を検討し、活発な議論が行なわれた。





(図32) 気流調査の様子



(図33) 一時保管場所の整備に関するグループディスカッション

### 2.4.3 講演会及びシンポジウム 本部 京博 東文研

#### (1) 国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題（Ⅱ）—災害後の復旧・復興の事例と課題—」

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所（以下、ACCU 奈良事務所）、文化庁、ICCROM（文化財保存修復研究国際センター）との共催で、国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題（Ⅱ）—災害後の復旧・復興の事例と課題—」を開催した。オブザーバー（聴講）は、会場参加がのべ14名、オンライン参加がのべ198名であった。

##### 【日程／開催方法】

資料配信：令和4年12月14日（水）～22日（木）

シンポジウム：令和4年12月21日（水）～22日（木）／奈良県コンベンションセンター及び Web 配信

##### 【内容】

アジア太平洋地域では毎年、洪水、地すべり、台風・サイクロン、地震、津波、高潮、火山噴火等による災害が起こっている。これらの自然災害からどのようにして文化財を守るかは、アジア太平洋地域の国々に共通の課題である。

ACCU 奈良事務所、文化庁、当センターは、アジア太平洋地域における災害時の文化財対応の事例や課題を共有し、文化財への被害を最小限にとどめるためには平常時からどのような取り組みを進めればよいかを考える機会を提供する3年間にわたる国際会議を開催しており、今年度は2年目にあたる。昨年度の災害時応急対応に続き、今年度は災害後の復旧・復興に関する様々な事例を共有し、課題の抽出と意見交換を行なった。

災害後の復興のプロセスにおいては、発災時の応急対応等から得られた教訓を活かし、同じ被害を繰り返さないための減災対策が講じられる。しかしながら、このプロセスを経ても、被害をゼロにすることは難しく、再び災害が発生して被害が出てしまった場合にも、迅速に対応できるように備えておくことも重要である。したがって、復興は「元の状態に戻す」ということではなく、「より災害に強い状態にする」ということである。これは一般的な防災だけでなく、文化財の防災にもあてはまる。

災害により被害を受けた地域（コミュニティ）の再生のためには、地域の宝であり、心のよりどころ



になる、地域の文化財の復旧・復興が必要である。地域の復興に文化財は大きく寄与する。本国際会議の総合討議では、国や地域によって異なる、文化財や復旧・復興に対する様々な考え方もふまえながら、地域と連携した文化財の復旧・復興を通して、どのようにしてよりよい復興を目指すかについて議論を交わした。

両日のプログラムは以下の通りである。

12月21日 (水)	
基調講演 I	「被災文化財を支援する意義—東日本大震災からの経験から」 日高真吾氏 (国立民族学博物館教授)
事例報告 I (ブータン)	「火災後のワンデュ・ポダン・ゾンの復興と再建」 カルマ・テンジン氏 (ブータン政府内務文化省文化局文化遺産保存課上級建築士)
事例報告 II (中国)	「中国文化遺産の災害後復旧：地域社会の参加と防災管理技術」 シュアン・ハオ (郝爽) 氏 (中国文化遺産研究院世界遺産センター技官)
事例報告 III (日本)	「東日本大震災及び原子力発電所事故からの福島県富岡町の文化財保全と活用」 三瓶秀文氏 (福島県富岡町教育委員会生涯学習課 課長補佐・生涯学習係長 (学芸員))
事例報告 IV (ネパール)	「2015年ネパール大地震：震災復興と文化遺産の再生」 スレッシュ・スラス・シェस्ता氏 (ネパール政府文化観光民間航空省担当次官兼文化部長)
事例報告 V (ニュージーランド)	「オタウタヒ (クライストチャーチ) の震災復興プロセスにおける遺産の価値付け」 アマンダ・オース氏 (クライストチャーチ・シティカウンシル主任遺産アドバイザー) フィオナ・ワイクス氏 (ヘリテージ・ニュージーランド南地域事務所地域マネージャー (カンタベリー西部沿岸地域))
事例報告 VI (フィリピン)	「減災に向けた文化財建造物と文化遺産の予防的保存：フィリピンにおける遺産管理者と行政担当者、そして地域コミュニティの連携」 マイクル・ケリド氏 (エスクエラ・タレル・フィリピン財団遺産保存開発管理事業部 担当調査官)
12月22日 (木)	
基調講演 II	「Building Back Better—文化遺産とともに—：災害時における文化遺産の応急処置とレジリエンス (ICCROM FAR プログラム) から災害時の視点、手法、トレーニングを考える」 アパルナ・タンドン氏 (ICCROM シニアプログラムリーダー)
総合討議	「文化財と地域の復興—Build Back Better を考える」 司会進行：高妻洋成 (文化財防災センター長) コメンテーター：日高真吾氏、アパルナ・タンドン氏、サキャ・ラタ氏 (立命館大学衣笠総合研究機構歴史都市防災研究所准教授)、ビクトリア・ピアース氏 (エンデンジャード・ヘリテージ代表、主任修復士)、森本晋 (ACCU 奈良事務所長) 討議参加者：事例報告者7名

なお、ACCU 奈良事務所のウェブサイトにて、本国際会議の報告書を公開している。

<https://www.nara.accu.or.jp/img/2023/accu-kokusa2022.pdf>



(図34) 国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題（Ⅱ）」

## (2) 文化財防火デートークイベント「京都における文化財防災ネットワークの構築を目指して」

令和5年1月19日（木）に京都府教育委員会、京都市、京都国立博物館、文化財防災センターの主催で、第69回文化財防火デーに合わせて、トークイベントを開催した。京都国立博物館の講堂を会場に開催し、42名の参加があった。本イベントは、令和5年1月26日（木）より文化財防災センター公式YouTubeチャンネルにて配信した。（URL：<https://youtu.be/2MYEHDEyy1Q>）

### 【日程／会場】

現地開催：令和5年1月19日（木）／京都国立博物館 講堂

動画配信：令和5年1月26日（木）配信開始／文化財防災センター公式YouTubeチャンネル

### 【内容】

開会挨拶 建石徹（文化財防災センター 副センター長）

#### 第1部 京都市の文化財防災体制の現状と課題

報告1 「京都市の文化財防災の取り組み」

山口壮八氏（京都市文化市民局文化芸術都市推進室 文化財担当部長）

岸本健史氏（京都市消防局予防部予防課 担当課長）

#### 第2部 文化財レスキュー活動の実例と課題

報告2 「災害発生時の初期対応」

小谷竜介（文化財防災センター 文化財防災統括リーダー）

報告3 「文化財の一時避難」

降幡順子（京都国立博物館学芸部 保存科学室長）

座談会 登壇者：

福島孝行氏（京都府教育庁指導部文化財保護課 主幹兼係長）

山口壮八氏（京都市文化市民局文化芸術都市推進室 文化財担当部長）

岸本健史氏（京都市消防局予防部予防課 担当課長）

小谷竜介（文化財防災センター 文化財防災統括リーダー）

降幡順子（京都国立博物館学芸部 保存科学室長）

コーディネーター：

建石徹（文化財防災センター 副センター長）

第1部では、山口壮八氏より、京都市が取り組んでいる Arts Aid KYOTO～京都市 連携・協働型文化芸術支援制度などの文化財行政における防災に関する取り組みについてご報告いただいた。また、岸本健史氏より、京都市消防局の文化財防火に関する取り組みとして、文化財市民レスキュー体制などの活動についてご報告いただいた。

第2部では、当センターの小谷竜介より、災害発生時の初期対応を迅速に行なうための平時の備えやネットワーク体制の構築の重要性について報告し、京都国立博物館の降幡順子より、文化財の一時避難収蔵庫の整備・運用における課題等について、KICK 収蔵庫活用事業を例に報告を行なった。

座談会では、京都府、京都市、京都国立博物館、文化財防災センターそれぞれの立場からみた歴史都市京都の文化財防災に関する現状と課題について議論がなされた。



(図35) イベントの様子



(図36) 座談会の様子

### (3) 令和4年度文化財防災センターシンポジウム「無形文化遺産と防災―被災の経験から考える防災・減災―」

- ・主催：文化財防災センター
- ・共催：東京文化財研究所
- ・日程・会場：令和5年3月7日（火）東京文化財研究所 地下1階セミナー室
- ・内容：

開会挨拶 高妻洋成（文化財防災センター）

趣旨説明 小谷竜介（文化財防災センター）

第一部 「地域復興のための無形伝承―無形文化遺産部の取り組みから―」

久保田裕道（東京文化財研究所）

「無形文化遺産の防災に係るセンターでの取り組み状況」

後藤知美（文化財防災センター）

コメント1) 前原恵美（東京文化財研究所）

コメント2) 佐藤翔輔氏（東北大学災害科学国際研究所）

## 第二部 「まつりの場の被災対応—等覚寺の松会・松庭の復旧について—」

若杵善満氏（苅田町教育委員会）

「雄勝法印神楽の道具の再生」

阿部久利氏（雄勝法印神楽保存会）

「コロナ禍における祭礼開催をめぐる地域社会での合意形成

—滋賀県・長浜曳山祭を事例として—」

武田俊輔氏（法政大学）

## 第三部 総合討議

〔コーディネーター〕 今石みぎわ（東京文化財研究所 無形文化遺産部）

〔パネリスト〕 村上忠喜氏（京都産業大学）

宮田繁幸氏（東京福祉大学）

日高真吾氏（国立民族学博物館）

野嶋洋子（アジア太平洋無形文化遺産研究センター）

佐藤翔輔氏（東北大学災害科学国際研究所）

小谷竜介（文化財防災センター）

閉会挨拶 早川泰弘（東京文化財研究所）

東日本大震災を契機とし、無形文化遺産が復興過程において果たす役割や、またそれらを災害から守る意義に注目が集まった。本シンポジウムは、国立文化財機構内におけるこれまでの取り組みを整理した上で、災害による被害を経験した無形文化遺産の事例を参照し、今後、どのようなかたちでこれまでの成果を発展させることができるのかを議論することを目的とし開催した。シンポジウム当日は、行政関係者や大学及び専門機関の研究者、無形文化遺産の担い手等、87名の方に参加いただいた。

午前は、東京文化財研究所と文化財防災センターから、それぞれ無形文化遺産の防災に関するこれまでの取り組みを紹介した。午後は、近年の被災事例として、等覚寺の松会（福岡県京都郡苅田町）、雄勝法印神楽（宮城県石巻市）、長浜曳山祭の曳山行事（滋賀県長浜市）の事例について、行政職員や担い手、研究者から報告があった。最後の総合討議では、昨年度の「無形文化遺産の防災に係る有識者会議」委員5名に当センター及び東京文化財研究所研究員を加えた7名で、他委員やフロアや報告者と議論を交わした。



(図37) 趣旨説明



(図38) 総合討論の様子



## 2.4.4 文化財防災に関する普及啓発書刊行の企画 本 部

文化財防災に関する理解促進と国内外への情報発信を目的として、各種普及啓発本の企画・編集等を行なった。

### ○『入門 大災害時代の文化財防災』

編者：高妻洋成、小谷竜介、建石徹

発行日：令和5年3月31日

### ○『災害対応ハンドブック（仮）災害予防編／災害対応基礎編』

平常時の減災に向けた取り組みや、文化財救援等に係る基本的な技術や知識を、文化財行政を担う全国の自治体職員や博物館・美術館職員等に普及することを目的としたハンドブックの企画立案を行なった。災害予防編では博物館・美術館の室内空間における地震対策について、災害対応基礎編では文化財レスキュー活動に関する基本情報について取り上げ、令和7年度までに刊行する予定である。

## 2.4.5 外部主催事業への協力、出展 本 部 東文研 奈文研 九 博

### (1) ICOM-DRMC

ICOMの常設委員会のひとつ、DRMC (Disaster Resilient Museums Committee) の2022年大会に参加した。2022年はICOMの総会がプラハ（チェコ国）にて、2022年8月22日（月）～24日（水）の日程で開催された。総会開催年の各委員会の大会は同会場で開かれることとなっている。DRMCの研究発表セッションは、1日目（22日）の午後に設定され、「博物館の技術とリスク管理」をテーマに発表が行なわれた。

当センターからは高妻が災害後の史跡の復旧に関する課題について報告した。このセッションではウクライナの博物館の状況についての報告のほか、共同開催委員会であるICAMT (International Committee of Architecture and Museum Techniques) 関連で、博物館の防災設備等に関する報告がなされた。



(図39) 会場の様子



(図40) 発表者の記念写真

## (2) 国際シンポジウム「気候変動と文化遺産—いま、何が起きているのか—」の共催

文化遺産国際協力コンソーシアム主催の令和4年度シンポジウム「気候変動と文化遺産—今、何が起きているのか—」を共催した。講演者から歴史上の気候変動と人間社会との関わりや、有形・無形の文化遺産が今直面している課題や保護のための取り組みについて発表がされた。また気候変動を前提とした文化遺産保護の在り方や課題に取り組むうえでの国際的な協調と連携の可能性など活発な議論が行われた。国内外から対面とオンライン配信で合わせて約200名が参加した。

日時：令和4年10月23日（日）9：15～15：30

場所：東京大学弥生講堂一条ホール、ライブ配信あり

プログラム：

開会挨拶 青柳正規氏（文化遺産国際協力コンソーシアム）

講演1「古気候学から見た過去の気候適応の記憶としての文化遺産の可能性」

中塚武氏（名古屋大学大学院環境学研究科）

講演2「我々の過去を未来へ：文化遺産と気候変動の緊急事態」

ウィリアム・メガリー氏（クイーンズ大学ベルファスト校自然環境学研究科／イコモス気候変動ワーキンググループ座長）

講演3「気候変動と伝統的知識：オセアニアの事例から」

石村智（東京文化財研究所 無形文化遺産部）

パネルディスカッション

モデレーター：園田直子氏（国立民族学博物館）

パネリスト：建石徹（文化財防災センター）、中塚武氏、ウィリアム・メガリー氏、石村智氏

閉会挨拶 高妻洋成

言語：日本語、英語 同時通訳あり

主催：文化遺産国際協力コンソーシアム、文化財防災センター、文化庁

後援：外務省、国際協力機構、国際交流基金、日本イコモス国内委員会、

ICOM（国際博物館会議）日本委員会



(図41) シンポジウムポスター



(図42) パネルディスカッションの様子

### (3) 第7回防災推進国民大会2022 in 兵庫

令和4年10月22日（土）～23日（日）、兵庫県神戸市で開催された「第7回防災推進国民大会2022 in 兵庫」に、「地域とともに災害から文化財をまもる～文化財防災センターの取り組み～」というテーマで出展した。ブースに出展者が常駐し、説明やミニプレゼンテーションを行なうプレゼンテーションタイプでの出展で、口頭説明やポスター、動画を用いた展示を行なった。当センターのブースには2日間で約250名に来訪いただいた。



(図43) 出展ブースの様子1



(図44) 出展ブースの様子2

### (4) 第9回全国史料ネット研究交流集会 in 宮崎

令和5年1月28日（土）～29日（日）、宮日会館（宮日ホール）を会場に開催された「第9回全国史料ネット研究交流集会 in 宮崎」において、当センターからは1月28日（土）に実施されたポスターセッションにて、ポスター展示を行なった。ポスター展示では当センターの文化財防災体制づくりへの取り組みや、平時及び災害発生時の活動について報告した。



(図45) 全国史料ネット研究交流集会ポスター



(図46) ポスターセッションの様子



### (5) シンポジウム「文化遺産とレジリエンス 災害後の文化遺産保全活動の世界的動向から学ぶ」

主催：東北大学災害科学国際研究所、文化財防災センター

日時：令和5年2月12日（日） 13：00～17：00

会場：東北大学災害科学国際研究所（オンラインハイブリッド開催）

参加：48名（うち会場参加7名）

『緊急時の文化遺産のファーストエイドハンドブック』日本語版刊行記念行事として、執筆者代表のイクロムシニアプログラムリーダーであるアパルナ・タンドン氏を招いて講演会と討論が行なわれた。

タンドン氏による講演後には、ハンドブックの翻訳を行なった心理学者であり、東北大学災害科学国際研究所客員教授の上山真知子氏、東北大学災害科学国際研究所レジリエンス協創センターの奥村誠氏、また当センターより高妻と小谷がコメントを行なった。その後、アパルナ氏とコメンテーターによる総合討議を行なった。

タンドン氏は最初に文化遺産を社会文化の過程を示すものと定義し、文化遺産はその社会的、文化的価値が変化していくものとして捉える。この観点から、地域コミュニティの住民がその時代時代の価値に基づいて文化遺産を保護し継承することこそが肝要であるとし、災害時に文化遺産に対する応急処置において、住民が参画することの大切さについて強調した。こうした観点は、日本でも徐々に広がりつつあり、当センターの取り組みを考える上でも重要な視座となるものであった。

### (6) シンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開Ⅵ—文化遺産を守り伝える新たな技術」

東北大学災害科学国際研究所・奈良文化財研究所・文化財防災センターは連携研究協定を締結することで、これまでの3者の連携研究活動をさらに促進し、さらなる研究の発展を目指す協定のキックオフシンポジウムを開催した。

主催：文化財防災センター、東北大学災害科学国際研究所、奈良文化財研究所

日時：令和5年（2023）2月24日（金） 13：45～16：30

会場：東北大学災害科学国際研究所（オンラインハイブリッド開催）

プログラム：

- ・「文化遺産防災マップの作成と活用」 蝦名裕一氏（東北大学災害科学国際研究所）
- ・「考古資料による潜在化したハザードの見える化と歴史災害研究」 村田泰輔（奈良文化財研究所）
- ・「災害文化としての自然災害伝承碑」 上相英之（文化財防災センター）
- ・「地理空間情報で文化遺産を保全する」 鈴木比奈子氏（栗駒山麓ジオパーク推進協議会専門員）・三浦信也氏・佐野浩彬氏・水井良暢氏・半田信之氏・吉森和城氏（防災科学技術研究所）
- ・「防災マップの共同制作による地域の文化遺産防災力向上に向けた取組—岩手県の事例報告」 目時和哉氏（岩手県立博物館）

### (7) 東南アジア文化遺産防災研修「変動の時代における都市型文化遺産の強靱性構築」

SEAMEO SPAFA（東南アジア教育大臣機構考古美術センター）は、ICCROM、立命館大学歴史都市防災研究所と共同で、近年、東南アジアで課題となっている文化遺産の自然災害、都市開発からの保護をテーマに2018年、2021年に研修を実施した。3回目にあたる今回は、“Building Resilience for Urban Heritage in Time of Changes” というテーマでバンコクにて研修が開催された（2月15日（水））



～25日(土))。センターからは鷺頭が出席し、*Salvaging Cultural Properties and Risk Mitigation at CH-DRMC Japan* と題して組織概要、災害発生時及び平時におけるセンターの活動について講義した。

同研修では、文化遺産保護の一環としての減災対策について、文化庁をはじめとする多くの専門家による講義があり、受講者によるバンコク歴史的地域の防災計画を策定するグループワークが行なわれた。

主催：SEAMEO SPAFA、ICCROM、立命館大学歴史都市防災研究所

後援：日本・文部科学省

派遣期間：2月20日(月)～25日(土)

会場：ヌーボシティホテル会議室(バンコク・タイ)

受講者：東南アジアの学芸員、文化財行政担当20名



(図47) 講義



(図48) グループワーク現地調査

## (8) その他

- 共催：公開シンポジウム「これからの文化財防災を考える—熊本地震と令和2年7月豪雨の経験から」、令和4年6月17日、一般社団法人文化財保存修復学会
- 共催：平城宮跡資料館令和4年度夏期企画展「大地鳴動—大地の知らせる危機と私たちの生活—」、令和4年7月16日～8月28日、奈良文化財研究所
- 後援：第9回アール・パレ「つくばアール・パレ展」、令和4年8月16日～8月21日、アール・パレ展実行委員会
- 後援：令和4年度山形文化遺産防災ネットワーク「災害対応ワークショップ」、令和4年9月11日、山形文化遺産防災ネットワーク
- 後援：公開シンポジウム「文化財保護に未来はあるか—日本の文化財のこれからを考える—」、令和4年12月11日、日本学術会議、史学委員会、文化財の保護と活用に関する分科会

## 2.5 文化財防災に関係する情報の収集と活用

### 2.5.1 文化財が被災した災害事例及び文化財防災の先進事例に関する情報収集

本部 奈文研 東文研 東博 奈良博

#### (1) 災害に対するミュージアム危機管理マニュアルの収集・分析事業に係る予備調査

近年、気候変動に伴う気象災害の激甚化が指摘されており、国内の博物館における被害も増えている。また、これまでに報告されている南海トラフ地震や首都直下型地震の被害想定を踏まえると、博物館にも甚大な被害が及ぶ可能性が高いと考えられる。

こうした状況を踏まえて、当センターでは「災害に対するミュージアム危機管理マニュアルの収集・分析事業」の構想を立て、今年度は先進的な事例等の収集を目的とした予備調査を実施した。

##### ○調査名称

災害に対するミュージアム危機管理マニュアルの収集・分析事業に係る予備調査

##### ○調査主体

文化財防災センター

##### ○調査期間

令和4年10月26日～未定（令和5年中）

##### ○調査内容

危機管理マニュアル記載事項の分析、整理

##### ○調査対象

国内に所在する博物館の危機管理マニュアル

※主な調査対象は、火災、地震、風水害、その他自然災害の対応に関する記載事項

##### ○調査協力機関

独立行政法人国立文化財機構、独立行政法人国立美術館、独立行政法人国立科学博物館

全国科学博物館協議会、一般社団法人全国美術館会議、全国歴史民俗系博物館協議会

#### (2) 東北大学災害科学国際研究所・奈良文化財研究所・文化財防災センターの三者連携研究協定

東北大学災害科学国際研究所・奈良文化財研究所・文化財防災センターは、奈良文化財研究所による「歴史災害痕跡データベース」構築と共同利用化、東北大学災害科学国際研究所による災害履歴情報と地理空間情報を組み合わせた文化遺産の防災手法の構築、文化財防災センターによる地域の災害文化に関する調査の推進と防災力向上のための災害文化データの利活用方法の検討をとおして、防災・減災に資する統合的研究を行なうため連携研究協定を締結した。令和5年2月24日（金）に締結式及びシンポジウム（詳細は2.4.5.(6)を参照）を開催した。

#### (3) 文化財防災の先進事例に関する情報収集

令和4年2月2日（水）に開館した大阪中之島美術館を訪問し、防災設備や防災体制についてヒアリング調査を行なった。当該館は、地方独立行政法人大阪市博物館機構に属する施設であるが、PFI コン

セッション方式を導入した日本初の美術館であり、現在は株式会社朝日ビルディングの子会社である株式会社大阪中之島ミュージアムが運営している。株式会社朝日ビルディングは同地区にある中之島フェスティバルタワーの運営・管理経験を有することから、当該館の防災体制に関してもそのノウハウが活かされている。ハザードマップ上では洪水浸水想定区域になっていないが、河川に挟まれた立地であることから、収蔵庫や展示室の位置設定には水害リスクが配慮されている。地震対策として、建物には基礎免震構造が採用されている。また、近隣に建つ関西電力ビルに地域冷暖房システムのプラントがあり、当該館でもそのシステムを利用した空調運用が行なわれているため、防災力向上にも寄与するものと考えられている。

#### 【訪問日・訪問先】

令和4年5月26日（木） 大阪中之島美術館



図49 大阪中之島美術館の外観



図50 大阪中之島美術館での調査

#### (4) 文化財が被災した災害事例等に関する情報収集

群馬県みどり市に所在する岩宿博物館において、空調設備機器の不具合による漏水が発生し、遺跡保存整備に関する書類ファイル等に水濡れが生じた。事故発生後からの対応を確認すると共に、被害を受けた書類ファイル等の対応について助言を行なった。

#### 【訪問日・訪問先】

令和4年6月28日（火） みどり市岩宿博物館

#### (5) 檜皮葺きの燃焼実験

令和3年7月22日（木）奈良県奈良市で火災が発生し、その飛び火が近隣にある崇道天皇社の檜皮葺き屋根の一部が焼損したことをきっかけとして、昨年からは檜皮葺きの燃焼実験が奈良市消防局を中心に行なわれている。今年度も令和4年7月28日（木）の実験に参加して、檜皮葺きの燃焼状況の新たな知見を得ることができた。



図51 檜皮葺きの燃焼実験風景



## (6) パネル展示「三重の文化遺産を守ろう！—文化遺産防災ネットワークの取り組み—」視察ならびにパネル展示「自衛隊の災害派遣活動とは」視察

三重県では1月の文化財防災デーにちなんで、防災に関する各取り組みの活動を広く知ってもらうために、関係施設でパネル展示を行なっている。今回、令和5年1月24日（火）に文化遺産の防災や被災資料の救出等の活動を行なう「文化遺産防災ネットワーク」の取り組みを紹介したポスター展示（三重県庁他）と、令和5年2月1日（水）に自衛隊の災害派遣活動に関するポスター展示（三重県生涯学習センター）を視察した。



図52 パネル展示「三重の文化遺産を守ろう！—文化遺産防災ネットワークの取り組み—」の様子

### 2.5.2 文化財防災総合データベースシステムの構築 東文研

災害発生時に、文化財の被害状況等の把握・情報収集に資する文化財防災総合データベースシステム構築のため、全国の文化財に関するデータの整理作業を実施した。昨年度に引き続き、都道府県及び文化庁から提供を受けた文化財データについて、有形文化財（美術工芸品）と無形の文化財を中心に、データ整理及び更新作業を実施した。

### 2.5.3 歴史災害痕跡に関するデータ収集並びにデータベース等の運用及び活用の推進 奈文研

本事業は、災害発生メカニズムや地域被災史を明らかにし、防災・減災研究を促進するための情報基盤を構築するため、平成25年度に始動した。調査記録の地域性や時代性の比較から始まり、取得される表層地質や災害痕跡情報のデータベース構造のモデルを作成した（図53）。現在、47都道府県合わせて約5万件の情報が蓄積されている。

#### 【令和4年度の活動】

- 1) 長岡京跡周辺（京都盆地西南域）を中心に約3,000地点の発掘調査データについて、調査報告書から堆積物や遺構、出土遺物の情報を収集し、災害痕跡の有無、種類について分類、整理しデータベース化した。
- 2) データベースの有効性について検討するために、「歴史災害痕跡データベース」の長岡京跡周辺のデータを用いて検討した結果、発掘調査で検出される表層地質と、断層が存在するような大深度地質あるいは基盤地質との間には、地盤の脆弱性に何らかの相関があることが示唆された。
- 3) 遺構の切り合いや出土遺物、さらに放射性炭素年代測定の結果から、災害痕跡の形成、すなわち災害の発生時期を、これまで以上に絞り込むことが可能となった。これにより歴史資料などのより時間精度の高い資料との対比性が高まった。今後、歴史資料との照合により、過去の地域災害履歴やその

実態をより具体的に解明できる可能性がある。

- 4) データベースの視認性についても検討した。令和4年度は、災害痕跡の表示マーカーについて視認性の高いデザインや、色覚多様性に対応した表示色の導入を共同開発し（JSPS 科研費20K20327）、それらの導入を進めている（図54、図55）。
- 5) 社会実装に向けて、自治体担当者向けの入力インターフェースを開発した（文部科学省「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」）（図56）。現在、奈文研ウェブサイトからのリンク公開をすすめるため、入力インターフェースを始めとする動作状況のα版テストを行なっている。

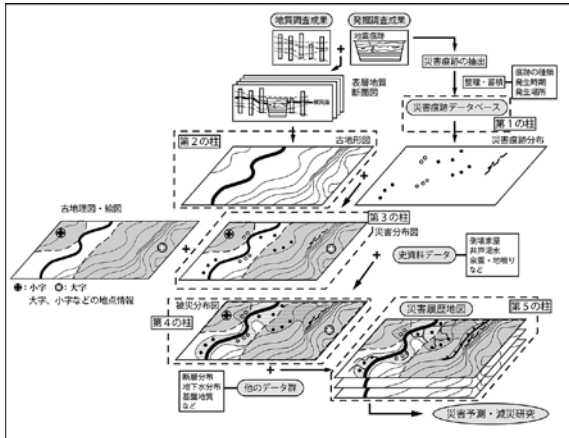


図53 データベースの構造モデル



図54 災害痕跡等の表示マーカー



図55 災害痕跡等表示の様子



図56 入力インターフェース

## 3. 災害時の支援

### 3.1 令和元年東日本台風：川崎市市民ミュージアム被災収蔵品 レスキュー活動に係る支援 本 部

川崎市市民ミュージアム（KCM）は、令和元年東日本台風による浸水で地下収蔵庫等が大きな被害を受けた。本年度、市民ミュージアムでは、冷凍状態から解凍した被災紙資料（一部冷蔵の紙資料）に応急処置（分離、記録、洗浄、乾燥、カビ払い等）を施し、データベースの整理を行ないながら、燻蒸の上外部保管施設に移送する作業を引き続き行なった。映画フィルムや考古資料等の応急処置作業も継続した。

文化財防災センターは、川崎市との協定により国立文化財機構担当者を現地に派遣した<sup>※1</sup>。機構担当者は応急処置作業に従事するとともにレスキュー会議や各種のミーティングに加わり、作業環境、応急処置、被災資料の情報処理、全体的な情報共有に関する課題等を精査し、その解決や改善を図るために助言を行なった。令和4年度に機構担当者関わった、解決や改善の対象は以下の通りである<sup>※2</sup>。

#### (1) 作業環境

① NPO 法人カビ相談センター、市民ミュージアム、機構担当者3者の定例会議（浮遊カビや付着カビの調査分析等を通して、作業環境改善、情報共有を図る）

#### ② 「環境と装備」

文化財防災センターが策定し4月から公開した「室内労働環境の浮遊カビの測定・評価と浮遊カビ等からの防護に関する管理基準（ガイドライン）」及び「浮遊カビ等からの人体の防護に関するマニュアル」<sup>※3</sup>に基づき、市民ミュージアム各作業室における毎月の浮遊カビの測定結果と適切な防護具の対応を示す「環境と装備」（エクセルシート）を KCM 簡易日報（本稿の注4を参照）に掲載。

#### ③ 作業環境の改善

作業室（地下、1F、3F）内外の各種装備置場とエントランスの資機材置場の整理。作業室で空調機の風が机上の資料にあたる状況の改善。職員用エレベーターの地下までの再稼働。

#### ④ 安全確保と健康被害防止

熱中症対策（作業室・休憩室の室温測定、夏期に涼しい待機場所の増設、作業室内の適切な室温管理、作業服等の軽装化と作業スタッフへの周知）。今後の作業服案検討。マスク配布場所への説明文作成と配置。

※1 115日間

※2 被災資料と種々の復旧に関して川崎市及び川崎市市民ミュージアムが実際に取り組んでいる活動の対象は多岐にわたる。ここに掲出している対象はそのうちのごく一部である。

※3 このガイドライン及びマニュアルは「川崎市市民ミュージアム館内環境の浮遊カビに係る維持管理規準」（令和3年2月18日策定）及び「川崎市市民ミュージアム カビの防護に関するマニュアル」（令和3年5月18日策定、いずれも作成／川崎市、川崎市市民ミュージアム、監修／NPO 法人カビ相談センター）を参考にして作成されている。

## (2) 応急処置の方法・手順・内容

- ① 「安定化処理」概念と「応急処置」概念に関する情報収集、整理、検討
- ② 応急処置工程一部見直しの可能性について担当者、外部支援団体コアメンバー等と情報共有、協議
- ③ 固着した紙資料開披の技術の習得と共有
  - ・竹ベラ、ピンセット、水、エタノール（50%～）、筆等を用いた開披（修復技術者からの技術移転、作業室内での共有資料作成、情報共有）
  - ・灰汁ないし炭酸カリウムを用いた開披（専門家から情報収集、情報共有）
  - ・被災資料の水洗に係る最適な手順の検討
- ④ スタッフ研修案の検討、作成

## (3) 被災資料の情報処理

- ① 応急処置に係る台帳
  - 台帳（調書）の記載内容やレイアウトの更新

## (4) 全体的な情報共有（対象・手段・内容等）

- ① 川崎市と市民ミュージアム
  - ・レスキュー会議、報告プロジェクト会議、その他のミーティング
- ② 外部支援団体コアメンバー
  - ・対面での協議、対面以外の協議（リモート会議、メール等）
- ③ 外部支援団体参加者
  - ・対面での情報提供・情報交換（朝礼、終礼、作業環境や作業内容について随時情報交換、各作業室案内）
  - ・対面以外の情報提供（参加者向け連絡ボード、開披技法説明ボード、ホワイトボード、その他館内表示、『2020年度 川崎市市民ミュージアム 被災収蔵品レスキューの記録集』も含む各種レスキュー関係資料配付）、外部支援団体参加者控室での情報提供
- ④ 視察者
  - ・視察者への情報提供、視察の受入準備と受入、それに先立つ配布資料や進行表等の作成、同資料の館内共有
- ⑤ QRコード入り「川崎市市民ミュージアム被災収蔵品レスキュー活動 主な参考資料」（図57）
  - ・運用方針策定、内容の改訂
- ⑥ 市民ミュージアム被災収蔵品レスキュー作業に係る簡易日報（略称「KCM簡易日報」）<sup>※4</sup>
  - ・記載ルールの確認と変更、記載内容充実、共有範囲の見直し
- ⑦ 市民ミュージアム被災収蔵品レスキュー作業に係る連絡事項（略称「KCM連絡事項」）<sup>※5</sup>
  - ・記載内容の更新

※4 KCM簡易日報（エクセルファイル）は、作業前の予定（作業者、作業場所、作業内容）の共有と作業後の実績報告という二つの機能をもち、レスキュー活動の重要な情報共有ツール兼アーカイブである。2021年6月からは「環境と装備」のシートが加わり、浮遊カビの量と装備を対応させる試みを実施されている。KCM簡易日報は（4）①～③についての情報共有の手段である。

※5 KCM連絡事項は次のような項目から成る。同館へのアクセス（近辺の図面も）/作業日程/仮設通用口の位置と受付開始時刻、入館方法、ガイダンス開始時刻、食事場所/ガイダンス開始までに参加者に行ってもらふこと/作業場所/作業内容/参加団体・参加者と役割分担/参加者に提供可能な装備/参加者に用意してもらふ装備/その他特記事項/連絡先KCM連絡事項は（4）①～④について情報共有の手段である。



⑧市民ミュージアムウェブサイト等での情報公開

- ・市民ミュージアムウェブサイト <https://www.kawasaki-museum.jp/rescue/>
- ・「川崎市市民ミュージアム被災収蔵品レスキューの記録」内の各コンテンツの作成と修正

⑨同館紀要や外部支援団体の機関誌等

- ・市民ミュージアム学芸員によるレスキュー活動の報告



(図57) QRコード入り「川崎市市民ミュージアム被災収蔵品レスキュー活動 主な参考資料」

3.2 令和3年11月二宮神社（新潟県佐渡市二宮）火災への対応

東博

令和3年11月22日（月）夜、新潟県佐渡市に所在する二宮神社にて火災が発生し、拝殿、本殿、社務所が全焼する被害が発生した。市指定有形文化財（建造物）の二宮神社能舞台には被害がなかった一方で、市指定有形文化財（彫刻）の石造狛犬一対には破損や欠損等の被害が生じた。なお、被災した当該文化財は、令和4年4月26日（火）付けで指定解除されている。本件について、佐渡市及び新潟県より支援依頼を受け、石造狛犬の被害状況確認及び修理や保管に関する助言を行なった。

【実施日・実施場所】

令和4年6月14日（火） 新潟県佐渡市二宮神社

【参加者】

佐渡市、新潟県、株式会社スタジオ三十三、文化財防災センター



(図58) 二宮神社での被害状況確認



(図59) 焼損した石造狛犬

### 3.3 令和4年3月16日福島県沖を震源とする地震への対応 東文研

令和4年3月16日（水）23時36分に福島県沖の深さ57kmを震源とし、マグニチュード7.4の地震が発生した。宮城県登米市、刈田郡蔵王町、福島県相馬市、南相馬市、伊達郡国見町では、最大震度6強を観測した。地震発生後、文化庁は、都道府県に対し国指定および地方指定文化財の被害状況についての照会を送信、文化財防災センターからも文化遺産防災ネットワーク推進会議参画団体に対し、本地震に関する被害状況について情報収集を呼び掛けた。

#### (1) 初動対応および情報収集

北海道・東北ブロックの道県との連絡調整を担当する東京文化財研究所は、地震発生翌日の3月17日（木）に、センター本部と今後の対応を協議した。その上で、18日（金）に、岩手県、宮城県、福島県3県の文化財主管課に連絡を取り、被害状況の確認と地震対応への支援準備を開始していることを伝えた。4月11日（月）にはセンターは、上記3県に対し支援・協力内容を周知し、域内に対応が困難な県指定・市町村指定等文化財がある場合は、支援を要望してほしいと呼びかける通知を発出した。

#### (2) 被災文化財への対応

4月11日付の通知に対し、3県の市町村文化財主管課より、有形文化財2件（福島県伊達市指定有形文化財・蠣崎波響献納石灯籠、福島県西白河郡矢吹町指定有形文化財・滝八幡三十三観音磨崖仏群）、記念物2件（福島県南相馬市指定史跡・相馬家墓地並びに相馬家霊堂、宮城県伊具郡丸森町指定史跡・金山城社）について、現地調査及び復旧・修理方針検討に係る指導・助言を求める依頼があった。

センター職員は、依頼があった各文化財の現地調査を実施し、所有者や各県及び各市町村文化財主管課と、今後の対応について協議を行なった。調査の実施にあたっては、宮城県・福島県文化財主管課が、所有者や市町村との調整を行なった。主な実施状況は以下の通りである。

- 相馬家墓地並びに相馬家霊堂（福島県南相馬市指定史跡）  
被害状況調査実施日：令和4年4月6日（水）
- 蠣崎波響献納石灯籠（福島県伊達市指定有形文化財）  
被害状況調査実施日：令和4年4月13日（水）
- 金山城社（宮城県伊具郡丸森町指定史跡）  
被害状況調査実施日：令和4年6月21日
- 滝八幡三十三観音磨崖仏群（福島県西白河郡矢吹町指定有形文化財）  
被害状況調査実施日：令和4年9月7日

### (3) 歴史的建造物の被害状況調査の実施

本地震への対応では、被災した歴史的建造物の被害状況調査を実施した。この調査は、令和4年3月11日に締結した「災害時における歴史的建造物の被災確認調査および技術支援等に関する協力協定」に基づき、一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本建築士連合会、公益社団法人日本建築家協会、公益社団法人土木学会と連携を取りつつ行なったものである。

地震発生翌日の17日に、センター内部及び上記協定締結団体との調整を行なった。報道等の情報から歴史的建造物への被害が予想されたため、揺れが大きかった範囲の被害状況を、悉皆的に把握する調査の実施が必要と判断した。そこで各県及び市町村と連携を取り、震度5強以上が観測された市町村に所在する地方指定有形文化財（建造物）を中心に、外観による被害調査を実施することとした。

以降、協定締結団体の協力の下、宮城県角田市（調査実施日：5月14日）、福島県福島市（5月24日）、宮城県南三陸町（5月29日）、岩手県奥州市（6月11日・18日・25日～28日・10月9日～15日）、福島県双葉郡双葉町（6月23日～30日）、福島県須賀川市（7月20日）、福島県双葉郡大熊町（9月17日）において調査を実施した。このうち、宮城県角田市、岩手県奥州市、福島県双葉郡大熊町で実施された調査には、センター職員も参加した。



(図60) 被災石造物の被害状況調査



(図61) 被災歴史的建造物の被害状況調査

## 3.4 令和4年6月19日能登地方を震源とする地震への対応 本部 京博

令和4年6月19日（日）に、石川県能登地方を震源とする最大震度6弱（マグニチュード5.4、深さ13km）の地震が発生した。当センターでは、富山大学の萩野紀一郎氏、富山県ヘリテージマネージャーの方々と連携し、この地震における歴史的建造物の被災状況確認を中心とする調査を実施した。

#### 【日程】

令和4年6月21日（火）～6月22日（水）

#### 【調査概要】

調査範囲は、揺れの大きかった珠洲市を中心に実施した。被害地域は局所的で、市中心部飯田町周辺において外観上目立った被害が見られたのみである。ただし、石造物の転倒、ずれなどはもう少し広い



範囲で確認された。飯田町では歴史的建造物について、柱のずれや土蔵のはらみ、漆喰壁の剥落などが見られた。

調査結果については、文化庁、石川県教育委員会事務局文化財課、珠洲市教育委員会事務局文化創造室と情報を共有し、緊急対応時に備えた連携体制の構築を行なった。



(図62) 文化財被害状況調査の様子



(図63) 文化財被害状況調査ルート



### 3.5 重要文化財五十嵐家住宅（新潟県東蒲原郡阿賀町）被災状況調査

#### 本 部

令和4年8月の大雨に伴い発生した土石流により、新潟県阿賀町に所在する重要文化財五十嵐家住宅が半壊する被害が発生した。同家の動産資料は新潟県立歴史博物館による調査が既に行なわれており、町指定文化財を含む多くは阿賀町が管理しているため被害を免れた。

五十嵐家住宅へのアクセスは、各所で発生した土石流により、集落から4kmほどの道のりを徒歩で行くより手段がない状態であった。そのため、8月30日に文化庁による建造物調査に同行、現地調査を行なった。調査には、阿賀町教育委員会、新潟県教育委員会、文化庁、新潟歴史資料救済ネットワーク、当センターが参加した。主屋に対する被害は、土砂によるものというよりも、土砂に流された杉の巨木によるものとみられる。

同地は豪雪地帯であり、前記のように道路が寸断している状況であることから、当面はブルーシートによる養生のみ行ない、本格的な対処は令和5年の雪解けを待ってから行なうこととなった。



(図64) 主屋の被災状況



(図65) 被災状況の調査

## 4. 受託事業

### 4.1 被災美術工芸資料等安定化処理及び修理業務（陸前高田市受託）

本 部 東文研 東 博 奈良博

平成23年3月11日に発生した東日本大震災による津波被害によって、陸前高田市立博物館の所蔵資料は甚大な被害を受けた。そこで文化財レスキューが実施され、一時保管施設として旧生出小学校が充てられた。現在では、被災資料の収蔵庫として旧生出小学校の体育館や校舎2階が使用されており、校舎1階では脱塩、脱脂、真空凍結乾燥などの保存処理作業が行なわれている。

なお、被災資料の一部は、令和4年11月に開館した新博物館へ移動されており、それ以外の被災資料が、今後、旧生出小学校にて保管される予定である。本年度は、被災した陸前高田市所有の美術工芸資料について、その恒久的保存と活用を図ることを目的として、(1) 資料の保存環境調査の実施、(2) 美術工芸資料等の安定化処理及び修理、(3) ワークショップを実施した。

#### (1) 資料の保存環境調査の実施

以下の調査や清掃等を実施し、現状把握並びに今後の恒久的保存の立案を行ない、委託者と協議した。

- ・収蔵施設の温湿度測定及び温湿度履歴の確認（通年）
- ・文化財害虫等の生息調査（10月～12月）、微生物調査（12月）、室内汚染物質の濃度調査（12月）
- ・図書室収蔵庫と屋外収蔵庫の除塵清掃（12月及び3月）

#### (2) 美術工芸資料等の安定化処理及び修理の実施

被災資料のうち、破損・劣化が激しく修理が必要な資料を選定し、専門家の知見を踏まえつつ、修理仕様書を作成し、仕様書の内容に応じ適切な修理業者を選定したうえで、修理を実施した。本年度は、横田膏関連資料（24点）及び木材加工関連資料（36点）の修理を実施した。

#### (3) ワークショップ

漆工品を修理する際は、漆を使って行なうため、一定の技術が必要である。一方で、漆塗膜がはがれ、剥落止めの処置が望まれる資料が多くあることから、技術者以外でもできる剥落止め処置について、技術取得のためのワークショップを以下の通り開催した。

- ・日程 令和5年2月9日（木）、10日（金）
- ・内容 漆工品についての概要、膠を用いた剥落止め技法についての実技
- ・参加者 学芸員ほか3名



(図66) 陸前高田市との打合せ風景



(図67) 環境測定 (ATP 測定) の様子



(図68) ワークショップの様子

## 4.2 令和4年度文化財防災のための詳細資料保存に係る調査等業務（文化庁受託）

本部

### 【業務の目的】

文化財は、火災等の災害により毀損・消失してしまう危険性がある。文化財が毀損等した場合には修復や復元の資料として、国指定等文化財の設計図や写真等の詳細記録が重要である。それらを活用するため、資料の所在状況の確認、整理及び保存、アーカイブ化するための調査等を行なう。

### 【業務の内容及び実績】

本業務の調査等実施内容は、以下1～7の通りである。

1. 京都府、滋賀県、奈良県、和歌山県及び文化財建造物保存技術協会等に所在する文化財建造物保存修理に関する詳細資料（以下「詳細資料」という。）の状況把握  
実績：文化財建造物保存技術協会所蔵資料のサンプリング調査を行ない、資料総量の推計を上方修正した。
2. 詳細資料の内容調査・分類・整理方法の検討  
実績：文化庁、京都府、滋賀県、奈良県、和歌山県及び文化財建造物保存技術協会担当者とともに担当者協議会を実施した。

資料総量推計の上方修正を受け、分類・整理方法の簡略化と、デジタル化対象の絞り込みを行なった。

3. 詳細資料の効率的なデジタル化の手法及びデータの長期保存の手法

実績：2で報告した分類・整理方法に基づき詳細資料のデジタル化を実施した。

4. 詳細資料を分類、整理し、保存のためのデジタル化の実施

実績：対象事業は114事業、総デジタル化資料数は79,981ファイル

5. デジタル化した資料のメタ情報項目の調査及びプロパティへの埋め込み

実績：メタ情報項目について検討を行ない、簡略化を行なった。

メタ情報の入力は、4で報告した資料全てにおいて完了している。

6. デジタル化した詳細資料を活用するためのシステム構成の検討

実績：デジタル化した詳細資料を検索・閲覧するためのユーザーインターフェースのイメージを作成した。

7. 詳細資料のアーカイブ化に係る必要な権利関係の処理

実績：今年度デジタル化した詳細資料の著作権処理については昨年度に処理が完了しており、追加の処理の発生はなかった。



(図69) 文建協資料調査の様子



(図70) 第2回担当者協議会



(図71) スキャン完了資料の一部



## 5. 関係機関との協議、事業報告

### (1) 文化遺産の防災に関する有識者会議

文化財防災センターが取り組む事業において、多様な文化遺産の防災に関する現状と課題、並びにセンターの事業の在り方に関して、外部有識者より知見を得るため、文化遺産の防災に関する有識者会議を開催した。

#### 【日程等】

第1回 令和4年6月29日（水）対面及び Web 会議（ホスト会場：奈良文化財研究所本庁舎4階会議室）

第2回 令和4年12月20日（火）対面及び Web 会議（ホスト会場：奈良文化財研究所本庁舎2階会議室）

#### 【有識者会議委員（五十音順／役職は令和5年3月31日時点）】

内田俊秀 京都芸術大学 名誉教授

大石泰夫 國學院大學文学部 教授

奥村 弘 神戸大学 理事・副学長

木下尚子 熊本大学 名誉教授

河野俊行 九州大学法学研究院 教授

高野明彦 国立情報学研究所 名誉教授

真鍋 真 国立科学博物館 副館長・研究調整役・標本資料センターコレクションディレクター

三村 衛 京都大学大学院工学研究科 教授

宗田好史 京都府立大学 名誉教授／関西国際大学 教授

村上博哉 武蔵野美術大学美学美術史研究室 教授

村上裕道 京都橘大学文学部歴史遺産学科 教授

### (2) 文化遺産防災ネットワーク推進会議

平常時における文化遺産防災のための連携体制の強化と技術研究の促進を図り、災害時における迅速な文化遺産の救出活動を行なうために、国内の関係機関間のネットワーク構築を推進することを目的として、関係機関26団体による文化遺産防災ネットワーク推進会議を開催した。

#### 【日程等】

##### ●文化遺産防災ネットワーク推進会議参画団体幹事会

出席：文化財防災センター、大学共同利用機関法人人間文化研究機構、公益財団法人日本博物館協会、一般社団法人全国美術館会議、歴史資料ネットワーク、文化庁（陪席）

第1回 令和4年6月15日（水）／ Web 会議（ホスト会場：奈良文化財研究所本庁舎4階会議室）

第2回 令和4年11月28日（月）／ Web 会議（ホスト会場：奈良文化財研究所本庁舎4階会議室）

## ●文化遺産防災ネットワーク推進会議

出席：推進会議参画団体26団体及び文化庁（陪席）

第1回 令和4年6月24日（金）／Web会議（ホスト会場：奈良文化財研究所本庁舎4階会議室）

第2回 令和4年12月9日（金）／Web会議（ホスト会場：奈良文化財研究所本庁舎4階会議室）

### 【参画団体】

- ・独立行政法人国立文化財機構
  - ・独立行政法人国立美術館
  - ・独立行政法人国立科学博物館
  - ・大学共同利用機関法人人間文化研究機構（※）
  - ・国立国会図書館
  - ・独立行政法人国立公文書館
  - ・公益財団法人日本博物館協会（※）
  - ・公益社団法人日本図書館協会
  - ・全国科学博物館協議会
  - ・一般社団法人文化財保存修復学会
  - ・一般社団法人日本考古学協会
  - ・日本文化財科学会
  - ・一般社団法人全国美術館会議（※）
  - ・全国歴史資料保存利用機関連絡協議会
  - ・全国大学博物館学講座協議会
  - ・特定非営利活動法人宮城歴史資料保全ネットワーク
  - ・歴史資料ネットワーク（※）
  - ・特定非営利活動法人西日本自然史系博物館ネットワーク
  - ・全国歴史民俗系博物館協議会
  - ・大学博物館等協議会
  - ・公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団
  - ・特定非営利活動法人文化財保存支援機構
  - ・日本民具学会
  - ・九州・山口ミュージアム連携事業実行委員会
  - ・一般社団法人国宝修理装演師連盟
  - ・特定非営利活動法人映画保存協会
- 26団体（令和5年3月31日現在）
- （※）は参画団体幹事

### (3) 文化財防災センター事業報告会

外部の関係団体等との意見交換及び情報共有のため、文化財防災センターの各種事業の実績、並びに事業計画について報告を行なった。

#### 【出席者】

文化財防災センター職員、文化財研究所及び国立博物館文化財防災プロジェクトチーム、国立文化財機構理事、同本部事務局長、文化遺産防災ネットワーク推進会議参画団体、文化遺産の防災に関する有識者会議委員、文化庁文化財鑑査官、同文化財防災専門官

#### 【日程等】

第1回 令和4年6月29日（水）／ Web 会議（ホスト会場：奈良文化財研究所本庁舎4階会議室）

第2回 令和4年12月20日（火）／ Web 会議（ホスト会場：奈良文化財研究所本庁舎4階会議室）

#### (4) 文化庁・文化財防災センター協議会

文化庁と文化財防災センターが、文化財の防災に関わる意見交換・情報共有を行なうため、毎月1回、原則第3月曜に開催した。

#### 【日程等】

第1回 4月18日（月） 第2回 5月18日（水） 第3回 6月20日（月）

第4回 7月19日（火） 第5回 8月18日（木） 第6回 9月21日（水）

第7回 10月18日（火） 第8回 11月21日（月） 第9回 12月19日（月）

第10回 1月16日（月） 第11回 2月20日（月） 第12回 3月20日（月）

いずれも Web 会議にて開催（ホスト会場：文化庁）

## 6. 文化財防災救援基金

### ●概要

文化財防災センターでは、地震や台風、豪雨など頻発する各種災害から多様な分野の文化財をまもるため、防災・減災に関する技術開発や災害発生時における文化財の救援活動に対する支援などを行なっています。

こうした取り組みの充実を図るとともに、災害発生時に迅速な対応ができるよう、令和5年3月に文化財防災救援基金を設立しました。

### ●令和4年度

寄附総額 297,000円（17名）

ご寄附いただいた皆様

※寄附額5万円以上で、お名前の公表に同意いただいた方を掲載しています。

速水 義一 様 / 湯川 咲子 様

### ●寄付金の状況

繰り越し 297,000円

寄付額 297,000円

（令和5年3月31日時点）



## 7. 資料編

### 7.1 委員の委嘱

機関	内容	担当者	期間
大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館	ネットワーク型基幹研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」（代表者：三上喜孝）共同研究員	黄川田翔	2022.6.1～ 2023.3.31
埼玉県教育局市町村支援部文化資源課	埼玉県立博物館等施設における収蔵資料防災マニュアル策定に係る指導	黄川田翔	2022.6.10～ 2023.3.31
山形県観光文化スポーツ部文化財活用課	文化財日常管理ハンドブック（美術工芸品編）作成プロジェクトチーム	後藤知美	2022.9.15～

### 7.2 学会及び研究会等の発表

発表テーマ	発表者	実施日	学会等名
大規模災害と文化財保存	鷲頭桂	2022.6.4	西南学院大学博物館資料保存論（非常勤講師）
2022年度災害対策調査部会の活動報告	和田浩	2022.6.18	文化財保存修復学会第44回大会
文化財防災センターの役割と今後の展望	小谷竜介	2022.6.18	文化財保存修復学会第44回大会
文化財防災に関わる地域の連携体制構築	中島志保、浜田拓志、小谷竜介、高妻洋成	2022.6.19	文化財保存修復学会第44回大会
シミュレーションを利用した立体文化財の転倒防止に関する研究—法蔵禅寺観音立像を例に—	降幡順子、中屋菜緒	2022.6.19	文化財保存修復学会第44回大会
災害情報の統合と都市と文化財のデジタル化と防災	和田浩	2022.7.3	震災遺構資料科研中四国九州保存修復研究会合同研究会
文化財防災センター発足後の取り組み	後藤知美	2022.7.26	令和4年度「文化財に係る災害時の相互応援に関する協定」連絡会議
Commitments of the Cultural Heritage Disaster Risk Management Center to protect Intangible Cultural Heritage from Disaster	小谷竜介	2022.8.5	アジア太平洋地域無形文化遺産研究センター国際ワークショップ
被災した史跡の復旧に関する課題	高妻洋成	2022.8.22	ICOM（国際博物館会議）プラハ大会 Committees Meetings「DRMC Museum Techniques and Risk management」
博物館の隠れた地震対策～東京国立博物館の事例を中心に～	黄川田翔	2022.8.30	東京消防庁主催「地震から身を守る室内安全セミナー」
地震時における室内空間の機能維持のための研究 その13 博物館・美術館の展示空間における設備什器類と展示物の被害	黄川田翔	2022.9.7	2022年度日本建築学会大会（北海道）学術講演会

発表テーマ	発表者	実施日	学会等名
文化財防災センター発足後の取り組み	高妻洋成、建石徹、小谷竜介	2022.9.11	日本文化財科学会第39回大会
地震波を受けた博物館用独立展示ケースの振動解析	黄川田翔	2022.9.11	日本文化財科学会第39回大会
滋賀・浄土寺所蔵天部形立像の転倒防止に関する研究—シミュレーション解析を利用して—	降幡順子、中屋菜緒	2022.9.11	日本文化財科学会第39回大会
Cultural Heritage Disaster Risk Management System and Response in the Event of a Disaster in Japan	小谷竜介	2022.9.12	INTERNATIONAL TRAINING COURSE (ITC) on DISASTER RISK MANAGEMENT of CULTURAL HERITAGE 2022, 16th year
Air quality in the prefabricated temporary storage for the rescued cultural properties	水谷悦子、秋山純子	2022.9.15	5th International Conference Indoor Air Quality in Heritage and Historic Environments
DRM system in Kyoto National Museum	降幡順子	2022.9.22	INTERNATIONAL TRAINING COURSE (ITC) on DISASTER RISK MANAGEMENT of CULTURAL HERITAGE 2022, 16th year
文化財防災センターの活動	小谷竜介	2022.10.2	日本建築学会文化財建造物防災体制検討特別委員会
無形民俗文化財の災害リスクの可視化と防災—防災対策と災害対応の標準化に向けて—	後藤知美	2022.10.2	日本災害復興学会大会
美術品、動産文化財の調査とレスキュー	木川りか、鷲頭桂	2022.10.29	鹿児島県建築士会主催ヘリテージマネージャースキルアップ講習会
文化財防災センターについて	水谷悦子	2022.11.11	令和4年度文化庁文化財行政講座
Current Status of the Cultural Heritage Disaster Risk Management Center establishment and activities in Japan	高妻洋成、建石徹、小谷竜介	2022.11.11-12	第56回 韓国文化財保存科学会
Study on the Environmental Control and Material Condition for the Use of Closed schools as a Cultural Property Storage Room	芳賀文絵 他	2022.11.11-12	第56回 韓国文化財保存科学会
Disaster Drill for Removing Museum Materials under the Assumption of Flooding	千葉毅 他	2022.11.11-12	第56回 韓国文化財保存科学会
地域社会の災害復興と民俗芸能	小谷竜介	2022.11.12	奈良県地域伝統文化保存協議会
地域文化を災害から守る—文化財防災センターの役割	小谷竜介	2022.12.16	国立民族学博物館、桃園市立大溪木藝生態博物館主催 国際シンポジウム「地域文化と博物館」
平成28年熊本地震における文化財レスキュー	小泉恵英	2023.1.19	鹿児島県立埋蔵文化財センター、文化財防災センター共催研修『文化財を災害から守る—現状と課題—』
美術工芸品をはじめとする動産文化財の調査とレスキュー	木川りか、鷲頭桂	2023.1.21	福岡県建築士会主催ヘリテージマネージャー講習会
文化財の防災を考える	小谷竜介	2023.1.27	第22回文化財防火ゼミナール
地域コミュニティと災害復興	高妻洋成	2023.2.12	『緊急時の文化遺産のファーストエイド』日本語版発表記念シンポジウム『文化遺産とレジリエンス—災害後の文化遺産保全活動の世界的動向から学ぶ—』
無形文化遺産防災に対する文化財防災センターの取り組み	小谷竜介	2023.2.12	『緊急時の文化遺産のファーストエイド』日本語版発表記念シンポジウム『文化遺産とレジリエンス—災害後の文化遺産保全活動の世界的動向から学ぶ—』

発表テーマ	発表者	実施日	学会等名
Salvaging Cultural Properties and Risk Mitigation at CH-DRMC Japan	鷲頭桂	2023.2.20	第3回東南アジア文化遺産防災研修会 “Building Resilience for Urban Heritage in Time of Changes”、タイ・バンコク SEAM EO SPAFA（東南アジア教育大臣機構）
国立文化財機構文化財防災センターの活動	小谷竜介	2023.3.20	全国美術館会議第37回学芸員研修会
報告を読み解き、想像して備える—支援や調査の活動を通して—	浜田拓志（客員研究員）	2023.3.20	全国美術館会議第37回学芸員研修会
美術品・動産文化財の調査と救援活動	小谷竜介	2023.3.25	大阪府ヘリテージマネージャー協議会フォローアップ研修会
東京都における文化財防災体制の現状と課題	黄川田翔	2023.3.26	2022年度歴史文化資料保全首都圏大学協議会

### 7.3 論文等の発表

発表者	論文テーマ	掲載誌名	掲載年月日
小谷竜介、瀧川裕貴、李善姫	新型コロナ禍と民俗行事—東北三県での調査—	日本民俗学 310	2022.5.20
後藤知美	支援施策の変遷と民俗学のかかわり	日本民俗学 310	2022.5.20
小谷竜介	東日本大震災から10年の道程—民俗芸能の再開と再定位—	楽劇学 (29)	2022.5.31
小谷竜介	文化財防災センターの活動状況と今後の課題	文化財の虫菌害84	2022.12.26
高妻洋成	文化財を災害からまもる—文化財防災における保存科学の使命—	文化財をしらべる・まもる・いかに—国立文化財機構 保存・修復の最前線—	2022.12.31
小谷竜介	被災地のくらしを取り戻すために—民俗文化財防災の課題—		
中島志保	ネットワークで文化財を災害からまもる—地域防災体制の構築—		
荒木臣紀	被災ガラス乾板を再生する—保存と活用に向けて—		
高妻洋成	文化財防災スパイラル	入門 大災害時代の文化財防災	2023.3.31
高妻洋成	救うのは「お宝」か—地域の文化財の救援—		
建石徹	文化財レスキューとその活動		
建石徹	大災害時代の文化財防災		
小谷竜介	大災害の現場から—東日本大震災をケーススタディに—		
小谷竜介	文化財がつなぐ地域のくらし		
小谷竜介	総がかりでまもる文化財		
鷲頭桂	被災書画の救援		
黄川田翔	災害発生時における情報収集と伝達		
水谷悦子	必ず必要になる—一時保管場所		
小峰幸夫	後回しのツケは大きいムシとカビ		
中島志保	まずは人ありき—現場に求められる人材とその育成—		
後藤知美	活躍が期待される文化財専門職員		
上相英之	命を守る文化財—自然災害伝承碑—		
中屋菜緒	博物館における災害への備え—火災と地震から文化財をまもる—		

発表者	論文テーマ	掲載誌名	掲載年月日
小谷竜介	用具を通して伝える無形文化遺産の被災とその意味	東北宗教学（特集号）	2023.3.31
中島志保	文化財防災のための研修の検討	文化財論叢V 奈良文化財研究所創立70周年記念論文集	2023.3.31
後藤知美	無形民俗文化財の災害リスクの可視化と防災—福岡県京都郡苅田町・等覚寺の松会の事例より—	無形文化遺産研究報告 第17号	2023.3.31

## 7.4 運営会議及びセンターミーティング

### (1) 文化財防災センター運営会議

文化財防災センターの運営に係る事項の方針の決定及び各種連絡調整を行なうため、同センターと国立文化財機構内文化財防災プロジェクトチームを統括する部長級職員による協議を、4月、6月、9月、11月、1月、3月の第3金曜に実施した。

#### 【出席者】

高妻洋成（文化財防災センター長）、建石徹（同副センター長）、金田明大（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長）、早川泰弘（東京文化財研究所副所長）、救仁郷秀明（東京国立博物館学芸研究部長）、尾野善裕（京都国立博物館学芸部長）、吉澤悟（奈良国立博物館学芸部長）、小泉恵英（九州国立博物館副館長）、河野一隆（同学芸部長）、小谷竜介（文化財防災センター文化財防災統括リーダー）、中島志保（同研究員）、甲斐優介（同総務担当係長）

#### 【日程等】

- 第1回 令和4年4月8日（金）／Web会議（ホスト会場：奈良文化財研究所本庁舎4階会議室）
- 第2回 令和4年6月3日（金）／Web会議（ホスト会場：奈良文化財研究所本庁舎4階会議室）
- 第3回 令和4年9月2日（金）／Web会議（ホスト会場：奈良文化財研究所本庁舎4階会議室）
- 第4回 令和4年11月4日（金）／Web会議（ホスト会場：奈良文化財研究所本庁舎4階会議室）
- 第5回 令和5年1月6日（金）／Web会議（ホスト会場：奈良文化財研究所本庁舎4階会議室）
- 第6回 令和5年3月3日（金）／Web会議（ホスト会場：奈良文化財研究所本庁舎4階会議室）

### (2) 文化財防災センターミーティング

各種事業に関して、連絡調整、事業進捗報告及び情報共有を行なうため、文化財防災センター本部職員と各施設配置の同センター職員によるミーティングを毎月1回、原則第2火曜14：00より実施した。

#### 【出席者】

高妻洋成（文化財防災センター長）、早川泰弘（東京文化財研究所副所長）、建石徹（文化財防災センター副センター長）、小谷竜介（同文化財防災統括リーダー）、中島志保（同研究員）、上相英之（同研

究員)、水谷悦子(同研究員)、後藤知美(同研究員)、黄川田翔(同研究員)、中屋菜緒(同アソシエイトフェロー)、小峰幸夫(同アソシエイトフェロー)、鷲頭桂(同主任研究員)、山野善紀(同アソシエイトフェロー)、甲斐優介(同総務担当係長)

### 【日程等】

- 第1回 令和4年4月12日(火) / 奈良文化財研究所本庁舎4階会議室
- 第2回 令和4年5月10日(火) / Web会議(ホスト会場:本部監理棟打合せ室)
- 第3回 令和4年6月7日(火) / Web会議(ホスト会場:本部監理棟打合せ室)
- 第4回 令和4年7月12日(火) / Web会議(ホスト会場:本部監理棟打合せ室)
- 第5回 令和4年8月9日(火) / Web会議(ホスト会場:本部監理棟打合せ室)
- 第6回 令和4年9月13日(火) / Web会議(ホスト会場:本部監理棟打合せ室)
- 第7回 令和4年10月11日(火) / Web会議(ホスト会場:本部監理棟打合せ室)
- 第8回 令和4年11月8日(火) / Web会議(ホスト会場:本部監理棟打合せ室)
- 第9回 令和4年12月13日(火) / 奈良文化財研究所本庁舎4階会議室
- 第10回 令和5年1月10日(火) / Web会議(ホスト会場:本部監理棟打合せ室)
- 第11回 令和5年2月14日(火) / Web会議(ホスト会場:本部監理棟打合せ室)
- 第12回 令和5年3月14日(火) / Web会議(ホスト会場:本部監理棟打合せ室)

## 7.5 活動の記録

実施日	用務	実施場所	出席者
2022.4.6	小高山同慶寺被災文化財現地調査	南相馬市(福島県)	高妻洋成、建石徹、後藤知美
2022.4.6-4.7	令和4年3月福島県沖地震による建造物の被害状況調査	福島市、相馬市、南相馬市(福島県)	小谷竜介、水谷悦子
2022.4.13	梁川天神社及び梁川八幡神社被災文化財現地調査	伊達市(福島県)	高妻洋成、建石徹、後藤知美
2022.4.13	建造物関係団体と福島県沖地震に伴う文化財建造物対応に関する打合せ	Web会議	後藤知美
2022.4.15	保有記録に関するヒアリング	文化財建造物保存技術協会	小谷竜介、島田敏男
2022.4.15-17	被災無形民俗文化財被害状況確認調査	白山多賀神社及び等覚寺区(福岡県京都郡苅田町)	久保田裕道、鈴木昂太、後藤知美
2022.4.21	ACCU 国際会議打合せ	なら歴史芸術文化村	高妻洋成、中島志保
2022.4.22	被災美術工芸資料等安定化处理及び修理業務(陸前高田市)打合せ	イカリ消毒株式会社深川営業所	小峰幸夫
2022.4.25	宮城県被災建造物調査打合せ	Web会議	小谷竜介、後藤知美
2022.5.12	IRCI 無形文化遺産事業打合せ	Web会議	小谷竜介
2022.5.14	被災建造物調査同行	角田市郷土資料館	小谷竜介、後藤知美
2022.5.19	埼玉県教育局文化資源課への訪問調査	埼玉県庁	黄川田翔
2022.5.22	自衛隊への協力に係るヒアリング	個人宅	小谷竜介、荒木臣紀
2022.5.24	文化庁受託事業に関する協議	和歌山県文化財センター	小谷竜介、島田敏男、山野善紀



実施日	用務	実施場所	出席者
2022.5.24	神奈川県教育局生涯学習部文化遺産課への訪問調査	神奈川県庁	黄川田翔
2022.5.24-5.26	文化財防災センター研修予行・打合せ	奈良文化財研究所	中島志保、鷺頭桂
2022.5.26	文化財防火デーイベント打合せ	京都市役所	小谷竜介、中屋菜緒
2022.5.26	文化財防災の先進事例に関する情報収集	大阪中之島美術館	黄川田翔
2022.5.27	文化庁受託事業に関する協議	京都府教育庁文化財保護課、滋賀県文化財保護課	小谷竜介、山野善紀、島田敏男、山野善紀
2022.5.27	群馬県地域創生部文化財保護課への訪問調査	群馬県庁	黄川田翔
2022.5.31	文化財防災に関する意見交換	奈良県文化・教育・くらし創造部文化財保護課	荒木臣紀、内藤航、小峰幸夫
2022.6.1	九州山口ミュージアム連携事業第25回共同事業ワーキング会議	宮崎県庁	白井克也、渡辺祐基、鷺頭桂
2022.6.2	立命館大学研修打合せ	奈良文化財研究所	高妻洋成、小谷竜介、中島志保
2022.6.3	令和4年度福井県文化財保護行政担当者会議出席	福井県生涯学習館	中屋菜緒
2022.6.7	ACCU 国際会議基調講演打合せ	文化財防災センター	日高真吾（客員研究員）、高妻洋成、中島志保
2022.6.8	岐阜県環境生活部県民文化局文化伝承課への文化財防災体制に関するヒアリング	岐阜県庁	小峰幸夫、中屋菜緒、荒木臣紀、内藤航
2022.6.8	茨城県教育庁総務企画部文化課への訪問調査	茨城県庁	黄川田翔
2022.6.9	水損書画初期処置 WS 講師との打合せ	Web 会議	鷺頭桂、中島志保
2022.6.10	防犯防災総合展2022参加	インテックス大阪	小峰幸夫、中屋菜緒、荒木臣紀
2022.6.11	被災建造物調査同行	奥州市（岩手県）	小谷竜介
2022.6.14	被害状況確認及び修理や保管に関する協議	佐渡市二宮神社	小谷竜介、黄川田翔
2022.6.14	新潟県観光文化スポーツ部文化課への訪問調査	新潟県庁	小谷竜介、黄川田翔
2022.6.14	記念物保護行政担当者会議	文化庁	中島志保
2022.6.14	令和4年度第1回京都文化財防災対策等連絡会出席	京都府公館	尾野善裕
2022.6.16	防災・防犯対策研修会	文化庁	高妻洋成（荒木臣紀、小峰幸夫：Web 参加）
2022.6.16	東京都教育庁地域教育支援部管理課への訪問調査	東京都庁	救仁郷秀明、黄川田翔
2022.6.17	一般社団法人文化財保存修復学会との共催による公開シンポジウム「これからの文化財防災を考えるー熊本地震と令和2年7月豪雨の経験から」	熊本県立美術館	高妻洋成、小谷竜介、中屋菜緒、（水谷悦子、小峰幸夫、鷺頭桂、小泉恵英、木川りか、白井克也、渡辺祐基：Web 出席）
2022.6.17	千葉県教育庁教育振興部文化財課への訪問調査	千葉県庁	黄川田翔
2022.6.18-6.19	文化財保存修復学会第44回大会でのポスター発表	熊本県立劇場	小谷竜介、中島志保、降幡順子、中屋菜緒、小峰幸夫
2022.6.21-6.22	令和4年6月19日能登地方を震源とする地震における被災状況確認疾走調査	石川県庁、珠洲市	小谷竜介、中屋菜緒
2022.6.21	令和4年3月福島県沖地震による史跡の被害調査（金山城）	丸森町（宮城県伊具郡丸森町）	高妻洋成、水谷悦子
2022.6.21	地域連携ヒアリング、意見交換	島根県教育庁文化財課	中島志保、上相英之

実施日	用務	実施場所	出席者
2022.6.21	防災科学技術研究所、東京消防庁、一般社団法人防災機器検査協会との室内安全対策に関する協議	東京国立博物館	黄川田翔
2022.6.23	長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課への訪問調査	長野県庁	黄川田翔
2022.6.27-28	被災無形民俗文化財被害状況確認調査	白山多賀神社及び等覚寺区(福岡県京都郡苅田町)	後藤知美
2022.6.27	栃木県教育委員会事務局文化財課への訪問調査	栃木県庁	黄川田翔
2022.6.28	文化財が被災した災害事例等に関する情報収集	みどり市岩宿博物館	建石徹、黄川田翔
2022.6.30	良正院本堂襖絵 令和4年度修理作品搬出作業	KICK	降幡順子
2022.7.5	日本ファイリング株式会社との被災資料対応打合せ	奈良市場冷蔵株式会社	小谷竜介、中島志保、上相英之
2022.7.7	三井住友海上火災保険株式会社との意見交換	Web 会議	建石徹、小谷竜介、中島志保
2022.7.8	福井県勝山市との文化財保存活用地域計画作成に関する打合せ、ヒアリング	Web 会議	中屋菜緒、中島志保
2022.7.8	山梨県観光文化部文化振興・文化財課への訪問調査	山梨県庁	古川攝一、黄川田翔
2022.7.22-7.25	同慶寺被災石造物状況調査及び相馬野馬追現地調査	南相馬市(福島県)	小谷竜介、後藤知美
2022.7.25	無形文化遺産の防災に関するディスカッション	東北大学	後藤知美
2022.7.26	災害時の応援活動支援に関する協定連絡会	福島県庁	後藤知美、水谷悦子
2022.7.28	梁川天神社被災文化財修理打合せ	伊達市(福島県)	高妻洋成、建石徹、後藤知美、芳賀文絵
2022.7.28	檜皮葺き燃焼実験	奈良市消防局	小谷竜介、水谷悦子、小峰幸夫、荒木臣紀、内藤航、前川歩(客員研究員)
2022.7.29	水損固着資料の修復に関する調査研究	長崎歴史文化博物館	中島志保、鷲頭桂、浜田拓志(客員研究員)、河野一隆、木川りか、白井克也、渡辺祐基、芳賀文絵
2022.8.2	IMV 株式会社との振動データに関する協議	東京国立博物館	黄川田翔
2022.8.3	消火設備等に関するヒアリング調査	東京国立博物館	金井健、犬塚将英、秋山純子、水谷悦子、救仁郷秀明、黄川田翔
2022.8.4	リカバリープロ株式会社との意見交換	文化財防災センター	高妻洋成、小谷竜介、中島志保
2022.8.4	埼玉県立川の博物館収蔵資料防災マニュアル策定に係る実地検証	埼玉県立川の博物館	救仁郷秀明、黄川田翔
2022.8.4	「水損書画の初期処置ワークショップ」サンプル作成打合せ	九州国立博物館	鷲頭桂
2022.8.5	「無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究」事業における地域ワークショップ	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	小谷竜介
2022.8.16	福岡県ヘリテージマネージャーの活動についてのヒアリング	九州国立博物館	高妻洋成、中島志保、鷲頭桂、小泉恵英、木川りか
2022.8.17	放送大学取材収録	文化財防災センター	小谷竜介
2022.8.19-25	ICOM 大会出席	プラハ(チェコ)	高妻洋成、小谷竜介
2022.8.23-24	受託事業・被災資料調査	陸前高田市立博物館	後藤知美

実施日	用務	実施場所	出席者
2022.8.24	令和4年度「文化財防犯・防火・防災関係者連絡会議」	奈良県立橿原考古学研究所	中島志保、上相英之、小峰幸夫、荒木臣紀
2022.8.26	水損書画初期処置 WS 講師との打合せ	東京文化財研究所（修護）	鷺頭桂、中島志保
2022.8.30	被災建造物現地調査	五十嵐家住宅	小谷竜介
2022.9.5-6	無形の文化財に関する被害状況確認調査	珠洲焼資料館	後藤知美、菊池理予
2022.9.5-9.6、9.8	日本建築学会全国大会（北海道）	Web 会議	水谷悦子
2022.9.6	立命館大学研修会打合せ	Web 会議	小谷竜介
2022.9.7	被災文化財復旧・復興に関する助言等	矢吹町（福島県西白河郡）	建石徹、水谷悦子
2022.9.7	「無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究」事業における地域ワークショップ	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	小谷竜介
2022.9.9	京都市下京区総合消火訓練立会	西本願寺	小谷竜介
2022.9.10-11	日本文化財科学会大会	千葉大学	高妻洋成、小谷竜介、水谷悦子、降幡順子、中屋菜緒
2022.9.15	5th International Conference Indoor Air Quality in Heritage and Historic Environments	Web 会議	水谷悦子
2022.9.15-16	陸前高田市受託事業・被災資料調査	陸前高田市立博物館	高妻洋成、建石徹、小谷竜介、後藤知美、黄川田翔、小峰幸夫
2022.9.17	被災建造物調査	福島県大熊町	小谷竜介
2022.9.19	立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修	立命館大学歴史都市防災研究所	小谷竜介
2022.9.23	日本災害・防災考古学会	Web 会議	村田泰輔、中屋菜緒
2022.9.26	地域連携ヒアリング、意見交換	広島県教育庁文化財課	中島志保、上相英之
2022.9.27	令和4年度えひめ文化財防災対策研修会 in 野村	乙亥会館	中島志保、上相英之
2022.9.28	被災建造物現地調査	神谷神社	小谷竜介
2022.9.28	埼玉県立自然の博物館収蔵資料防災マニュアル策定に係る実地検証	埼玉県立自然の博物館	黄川田翔
2022.9.29	放送大学博物館資料保存論打合せ	Web 会議	小谷竜介
2022.9.29	九州山口ミュージアム連携事業第26回共同事業ワーキング会議	かごしま県民交流センター	河野一隆、木川りか、鷺頭桂
2022.9.30	山形県文化財日常管理・防災ハンドブック作成プロジェクトチーム第1回編集会議	Web 会議	後藤知美
2022.10.1-2	日本災害復興学会2022京都大会発表	京都大学宇治キャンパス	後藤知美
2022.10.2	日本建築学会シンポジウム「文化財建造物の災害と復旧の課題—防災体制確立のため—」	工学院大学	小谷竜介、小峰幸夫
2022.10.4	文化財防災に関する意見交換	三重県教育委員会事務局社会教育、同文化財保護課、三重県環境生活部文化財振興課	荒木臣紀、内藤航、小峰幸夫
2022.10.7	大田原市文化財保存活用地域計画に関するヒアリング調査	大田原市役所	黄川田翔
2022.10.7	令和4年度第1回博物館学芸員等スキルアップ研修	熊本県博物館ネットワークセンター	中島志保、鷺頭桂
2022.10.12-10.13	地域連携ヒアリング、意見交換	鳥取県地域づくり推進部文化財局	中島志保、上相英之
2022.10.14	京都国立博物館館蔵品搬出作業	KICK	中屋菜緒

実施日	用務	実施場所	出席者
2022.10.17	文化庁文化財建造物保存修理関係者等連絡協議会	東京国立博物館	小谷竜介
2022.10.22-10.23	ぼうさいこくたい2022	国際協力機構関西センター (JICA 関西)	小谷竜介、中島志保、中屋菜緒、小峰幸夫
2022.10.23	文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「気候変動と文化遺産—いま、何が起きているのか—」	東京大学	黄川田翔、後藤知美、水谷悦子、芳賀文絵、千葉毅
2022.10.24	梁川天神社被災文化財現地調査	伊達市 (福島県)	高妻洋成、建石徹
2022.10.24-25	無形の文化財に関する被害状況確認調査	珠洲市役所・珠洲市陶芸センター	後藤知美、菊池理予
2022.10.25	令和4年6月19日能登地方を震源とする地震における珠洲焼被災調査	珠洲焼資料館、珠洲焼陶芸センター	降幡順子、中屋菜緒
2022.10.25	防火設備に関するヒアリング調査	国立西洋美術館	黄川田翔、水谷悦子、金井健、秋山純子、千葉毅
2022.10.27	被災油彩画の応急処置等に関するヒアリング	福岡市美術館	鷲頭桂
2022.10.29	令和4年度ヘリテージマネージャーのための「地域文化財建造物保存修理技術スキルアップ講習会」	かごしま国際交流センター	木川りか、鷲頭桂
2022.10.29-30	被災無形民俗文化財被害状況確認調査	津森神宮・杉堂地区 (熊本県益城町)	後藤知美
2022.10.31-11.4	「水損書画の初期処置ワークショップ」	奈良文化財研究所	高妻洋成、中島志保、鷲頭桂、水谷悦子、木川りか
2022.11.1	日本建築学会委員会傍聴	Web 会議	小谷竜介
2022.11.1	令和4年度文化財防火デーイベント打合せ	京都国立博物館	小谷竜介、中屋菜緒
2022.11.3	日本建築学会シンポジウム参加「さまざまな自然災害から文化財建造物を守るために—これからの文化財防災を考える—」	Web 会議	小峰幸夫、鷲頭桂、木川りか
2022.11.4	災害対策研究会との図上訓練に関する打合せ	東京国立博物館	黄川田翔
2022.11.10	文化財行政講座	文化庁	高妻洋成
2022.11.10	防火設備に関するヒアリング調査	国立アイヌ民族博物館	救仁郷秀明、古川攝一、黄川田翔、水谷悦子
2022.11.11	文化財行政講座	文化庁	水谷悦子
2022.11.12	奈良県無形民俗文化財協議会研修会	奈良県コンベンションセンター	小谷竜介
2022.11.15	令和4年度京都文化財防災対策等連絡会 (第2回)	京都府庁	小谷竜介、中島志保、尾野善裕、降幡順子
2022.11.15	入居者交流会	KICK	甲斐優介、中島志保
2022.11.16	令和4年度岡山県文化財等救済ネットワーク研修会	岡山県古代吉備文化財センター	中島志保、上相英之
2022.11.21	被災建造物調査打合せ	日本建築士会連合会	小谷竜介
2022.11.21	地域連携ヒアリング、意見交換	香川県立ミュージアム	中島志保、上相英之
2022.11.22	地域連携ヒアリング、意見交換	徳島県文化資源活用課	中島志保、上相英之
2022.11.22	世界の記憶グローバルポリシーフォーラム	京王プラザホテル	建石徹、小谷竜介、(中屋菜緒:Web参加)
2022.11.22	福島県教育庁文化財課との3月16日発生福島県沖地震対応打合せ	Web 会議	後藤知美
2022.11.24	県内会合への参加	埼玉県立歴史と民俗の博物館	黄川田翔



実施日	用務	実施場所	出席者
2022.11.29	八代市被災資料の処置に関する打合せ	日本ファイリング株式会社	中島志保、上相英之
2022.11.30	奈良県文化財防災マニュアル改定に係る協議	奈良国立博物館	小谷竜介、小峰幸夫、荒木臣紀、内藤航
2022.11.30	文化財防災体制に関するヒアリング	兵庫県教育委員会文化財課	中島志保、中屋菜緒
2022.12.5	東京大学 ERS シンポジウム：関東大震災100周年に向けて	Web 会議	水谷悦子
2022.12.6	奈良県文化財建造物防災設備調査同行	今西家住宅	小谷竜介、大林潤
2022.12.6	ACCU 国際会議打合せ	文化財防災センター	高妻洋成、中島志保
2022.12.6	宮城県教育庁文化財課との3月16日発生福島県沖地震対応打合せ	Web 会議	後藤知美、中島志保、水谷悦子
2022.12.6	福井県における文化財防災体制に関するヒアリング	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館	降幡順子、中屋菜緒
2022.12.7	日立市文化財保存活用地域計画に関するヒアリング調査	日立市郷土博物館	黄川田翔
2022.12.7-9	被災美術工芸資料等安定化处理及び修理業務（陸前高田市）環境調査・除塵清掃	陸前高田市博物館旧生出小学校	小峰幸夫
2022.12.8	しまねミュージアム協議会	島根県民会館	上相英之
2022.12.11	日本学術会議公開シンポジウム「文化財保護に未来はあるか—日本の文化財のこれからを考える—」	Web 会議	小峰幸夫
2022.12.12	京都大学「第28回市民防災講座—災害リスクを考える—豪雨災害に備える」	ホテルグランヴィア京都	中屋菜緒（小峰幸夫：Web 参加）
2022.12.14	奈良県文化財建造物防災設備調査同行	和爾下神社	小谷竜介、島田敏男
2022.12.14	熊本県教育庁教育総務局文化課との熊本地震他災害による無形民俗文化財の被害状況に関する打合せ	Web 会議	後藤知美
2022.12.15	ACCU 国際会議登壇者打合せ	Web 会議	高妻洋成、中島志保
2022.12.15	埼玉県立文書館収蔵資料防災マニュアル策定に係る実地検証	埼玉県立文書館	黄川田翔
2022.12.16	文化財防災センター主催令和4年度研修「被災文化財の一時保管場所を考える—人と資料の安全を両立するゾーニング」	東京文化財研究所	高妻洋成、建石徹、水谷悦子、中島志保、小峰幸夫、鷲頭桂、荒木臣紀
2022.12.16	伊勢原市文化財保存活用地域計画に関するヒアリング調査	伊勢原市役所	黄川田翔
2022.12.16-12.17	国際シンポジウム「地域文化と博物館」	国立民族学博物館	小谷竜介
2022.12.19	基金に関する打合せ	公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団	高妻洋成、建石徹、小谷竜介
2022.12.21	東北大学災害科学国際研究所、奈良文化財研究所、文化財防災センター三者連携研究協打合せ	Web 会議	村田泰輔、上相英之
2022.12.21-12.22	ACCU 国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題Ⅱ」	奈良県コンベンションセンター	高妻洋成、小谷竜介、中島志保、小峰幸夫、千葉毅（後藤知美、中屋菜緒、鷲頭桂：Web 聴講）
2022.12.22	富里市文化財保存活用地域計画に関するヒアリング調査	富里中央公民館	黄川田翔
2022.12.23	地震史料シンポジウムⅡ 災害史料研究が拓く歴史学の新たな方法	Web 会議	村田泰輔、上相英之

実施日	用務	実施場所	出席者
2022.12.23	東北大学災害科学国際研究所、奈良文化財研究所、文化財防災センター三者連携研究協打合せ	Web 会議	村田泰輔、上相英之
2022.12.24	琉球の漆文化と科学2022	Web 会議	水谷悦子
2022.12.26	東北大学災害科学国際研究所、奈良文化財研究所、文化財防災センター三者連携研究協打合せ	Web 会議	村田泰輔、上相英之
2022.12.27	文化財防火デーイベント打合せ	Web 会議	建石徹、小谷竜介、中屋菜緒、降幡順子
2023.1.9	東日本大震災アーカイブシンポジウム参加	東北大学災害科学国際研究所	中屋菜緒
2023.1.10	奈良県文化財建造物防災設備調査同行	圓福寺本堂	小谷竜介、島田敏男
2023.1.10-12	受託事業・被災資料調査	陸前高田市立博物館	後藤知美
2023.1.11	立体作品の三次元計測及び調査	京都国立博物館文化財保存修理所	降幡順子、中屋菜緒
2023.1.12	被災資料処置に関わる日本ファイリング株式会社との打合せ	文化財防災センター	中島志保、上相英之
2023.1.12	東北大学災害科学国際研究所、奈良文化財研究所、文化財防災センター三者連携研究協打合せ	Web 会議	村田泰輔、上相英之
2023.1.13	奈良県文化財建造物防災設備調査同行	長福寺本堂	島田敏男
2023.1.13-1.16	視察	大溪木芸生態博物館（台湾）	小谷竜介
2023.1.17	R5年度国際会議実施に関わる打合せ	Web 会議	高妻洋成、中島志保
2023.1.18-1.19	令和4年度埋蔵文化財技術研修講座（調査研究）	鹿児島県立埋蔵文化財センター	高妻洋成、中島志保、上相英之、鷲頭桂、小泉恵英
2023.1.19	文化財防火デーイベント開催	京都国立博物館	建石徹、小谷竜介、中屋菜緒、黄川田翔、小峰幸夫、降幡順子
2023.1.20	21世紀減災社会シンポジウム「関東大震災から100年」参加	Web 会議	中屋菜緒
2023.1.21	福岡県建築士会ヘリテージマネージャー・ヘリテージサポーター第6期養成講習会	八重洲博多ビル	木川りか、鷲頭桂
2023.1.22	文化財保存修復学会公開シンポジウム「変動する地球環境と文化財の保存」	国立民族学博物館	小峰幸夫
2023.1.23	八代市受託事業に係る協議	八代市文化振興課	小谷竜介、上相英之
2023.1.23	「三重の文化遺産を守ろう！ー文化遺産防災ネットワークの取り組みー」パネル展示の視察	三重県庁	小峰幸夫
2023.1.24	地域連携ヒアリング、意見交換	滋賀県文化スポーツ部文化財保護課	中島志保、中屋菜緒
2023.1.24	建造物関係団体との北海道・東北地区担当者の顔合わせ日程	Web 会議	小谷竜介、後藤知美、水谷悦子、金井健
2023.1.26	防火訓練視察	法隆寺	建石徹、小谷竜介、芳賀文絵、千葉毅
2023.1.27	文化遺産防災マップ運用講習会	岩手県立博物館	中島志保、水谷悦子
2023.1.27	第22回文化財防火ゼミナール	奈良国立博物館	小谷竜介、荒木臣紀、小峰幸夫、千葉毅
2023.1.28-1.29	第9回全国史料ネット研究交流会	宮日会館	高妻洋成、中島志保、黄川田翔、中屋菜緒、上相英之
2023.1.30	大安寺消防訓練見学	大安寺	小谷竜介

実施日	用務	実施場所	出席者
2023.1.30	奈良県文化財建造物防災設備調査同行	円証寺本堂	小谷竜介、島田敏男、山野善紀
2023.1.31	さいたま文学館収蔵資料防災マニュアル策定に係る実地検証	さいたま文学館	黄川田翔
2023.1.31	富山県教育委員会生涯学習・文化財室への文化財防災体制に関するヒアリング	富山県庁	降幡順子、中屋菜緒
2023.1.31	九州山口ミュージアム連携事業第27回検討会議	山口県庁	鷺頭桂
2023.2.1	防火技術の開発事業打合せ	東京文化財研究所	建石徹、小谷竜介、水谷悦子
2023.2.1	被災視聴覚資料の応急処置ワークショップに関する協議	株式会社東京光音	救仁郷秀明、黄川田翔
2023.2.1	パネル展示の視察	三重県立図書館、三重県立総合博物館	荒木臣紀
2023.2.1-2	リスク研究会事業（施設環境）現地調査打合せ	美浜町旧菅浜小学校	小峰幸夫
2023.2.2	陸前高田市受託横田膏修理事業検収	国立民族学博物館	小谷竜介
2023.2.2	白岡市文化財保存活用地域計画に関するヒアリング調査	白岡市生涯学習センター	黄川田翔
2023.2.2	立体作品の三次元計測及び調査	念佛寺	降幡順子、中屋菜緒
2023.2.3	地域防災体制構築事業に係る静岡県ヒアリング	静岡県庁	小谷竜介、中島志保、小峰幸夫、荒木臣紀、内藤航
2023.2.6	奈良県文化財建造物防災設備調査同行	薬園八幡神社、小泉神社	島田敏男
2023.2.6	被災資料登録システムに関する情報収集	奈良国立博物館	荒木臣紀
2023.2.7-2.8	旧吉田家住宅再建事業現地視察	陸前高田市	小谷竜介
2023.2.8	奈良県文化財建造物防災設備調査同行	天皇神社	島田敏男
2023.2.8	秩父市文化財保存活用地域計画に関するヒアリング調査	秩父市役所（歴史文化伝承館）	黄川田翔
2023.2.8-2.10	陸前高田市立博物館漆工品応急処置ワークショップ	陸前高田市	小谷竜介
2023.2.12	東北大学災害科学国際研究所との共催による文化財保存修復国際センター（ICCROM）編「緊急時の文化遺産のファーストエイド」日本語版発表記念シンポジウム「文化遺産とレジリエンス 災害後の文化遺産保全活動の世界的動向から学ぶ」	東北大学災害科学国際研究所	高妻洋成、小谷竜介
2023.2.13	被災有形文化財被害状況確認調査	梁川天神社（福島県伊達市）	脇谷草一郎、後藤知美
2023.2.15	文化財防災救援基金打合せ	Web会議	高妻洋成、建石徹、小谷竜介、甲斐優介
2023.2.15	無形文化遺産の防災に関するディスカッション	東北大学	後藤知美
2023.2.16-17	受託事業・被災資料調査	陸前高田市立博物館	建石徹、甲斐優介、後藤知美、水谷悦子、秋山純子、小山田智寛、芳賀文絵、千葉毅
2023.2.16-17	第99回 情報処理学会 電子化知的財産・社会基盤研究会開催	奈良文化財研究所	上相英之

実施日	用務	実施場所	出席者
2023.2.19-2.26	SPAFA 第3回ワークショップ「東南アジア諸国における災害リスクと文化遺産への影響に関する意識向上」	SEAMEO SPAFA (タイ・バンコク)	鷲頭桂
2023.2.20	リカバリープロ株式会社見学、意見交換	リカバリープロ株式会社	高妻洋成、小谷竜介、中島志保
2023.2.24	東北大学災害科学国際研究所及び奈良文化財研究所との共催によるシンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開VI—歴史を守り伝える新たな技術」	東北大学災害科学国際研究所	建石徹、上相英之
2023.2.27	地域防災体制構築事業に係る大阪府ヒアリング	大阪府庁	小谷竜介、中島志保、小峰幸夫、荒木臣紀、内藤航
2023.2.27	防火設備に関するヒアリング調査	広島県立文書館	黄川田翔、水谷悦子
2023.2.27	良正院本堂襖絵 令和4年度修理作品搬入	KICK	降幡順子、中屋菜緒
2023.2.28	被災視聴覚資料の応急処置ワークショップに関する協議	川崎市市民ミュージアム	救仁郷秀明、黄川田翔
2023.3.1	地域連携ヒアリング、意見交換、文化財災害対応マニュアル(案)の検討	和歌山県庁	中島志保
2023.3.2	埼玉県文化財収蔵施設収蔵資料防災マニュアル策定に係る実地検証	埼玉県文化財収蔵施設	黄川田翔
2023.3.7	令和4年度文化財防災センターシンポジウム「無形文化遺産と防災—被災の経験から考える防災・減災—」	東京文化財研究所	後藤知美、中島志保、中屋菜緒、鷲頭桂
2023.3.7-9	被災美術工芸資料等安定化处理及び修理業務(陸前高田市)除塵清掃	陸前高田市博物館旧生出小学校	小峰幸夫、黄川田翔
2023.3.8-9	受託事業・被災資料調査	陸前高田市立博物館	後藤知美
2023.3.10	転倒シミュレーション解析結果報告	株式会社構造計画研究所(Web会議)	降幡順子、中屋菜緒
2023.3.13	令和4年度中国・四国地方の文化財防災に関わる研究協議会	岡山県庁小橋町庁舎	小谷竜介、中島志保
2023.3.16	令和4年度第3回京都文化財防災対策等連絡会出席	京都府公館	尾野善裕、降幡順子、中島志保
2022.3.17	被災資料処置及び処置・保存環境に関する協議	川崎市市民ミュージアム	建石徹、水谷悦子、後藤知美、犬塚将英、秋山純子、芳賀文絵、千葉毅、金井健
2023.3.17	群馬県文化財防災ネットワーク連携協議会設立に係る打合せ	群馬県立文書館	黄川田翔
2023.3.20	全国美術館会議第37回学芸員研修会「美術館の防災対策」	国立西洋美術館	小谷竜介、浜田拓志(鷲頭桂聴講)
2023.3.24	令和4年度第2回埋蔵文化財担当専門職員等研修会(徳島県)	Web会議	中島志保
2023.3.25	大阪府建築士会ヘリテージマネージャースキルアップ講座	Web会議	小谷竜介、島田敏男
2023.3.26	首都圏大学協議会への参加	パルテノン多摩	黄川田翔



## 7.6 職員名簿

### 【文化財防災センター】

センター長	高妻 洋成	(併)奈良文化財研究所副所長
(併)副センター長	建石 徹	東京文化財研究所保存科学研究センター長
研究員	小谷 竜介	文化財防災統括リーダー
研究員	中島 志保	研究担当研究員
研究員	上楯 英之	研究担当研究員／奈良文化財研究所配置(併)奈良文化財研究所埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室
研究員	水谷 悦子	研究担当研究員／東京文化財研究所配置(併)東京文化財研究所保存科学研究センター
研究員	後藤 知美	研究担当研究員／東京文化財研究所配置(併)東京文化財研究所無形文化遺産部無形民俗文化財研究室
研究員	黄川田 翔	研究担当研究員／東京国立博物館配置(併)東京国立博物館学芸研究部保存修復課環境保存室
研究員	中屋 菜緒	研究担当アソシエイトフェロー／京都国立博物館配置(併)京都国立博物館学芸部保存科学室
研究員	小峰 幸夫	研究担当アソシエイトフェロー／奈良国立博物館配置(併)奈良国立博物館学芸部保存修理指導室
研究員	鷲頭 桂	研究担当主任研究員／九州国立博物館配置(併)九州国立博物館学芸部博物館科学課保存修復室
研究員	山野 善紀	研究担当アソシエイトフェロー
事務職員	甲斐 優介	総務担当係長
事務補佐員	中井 麻紀子	総務担当
事務補佐員	藤原 敦子	総務担当
技術補佐員	阿部 咲季香	研究担当
技術補佐員	石橋 真理	研究担当(～令和4年8月18日)
技術補佐員	大西 千巡	研究担当
技術補佐員	中井 はる子	研究担当
技術補佐員	中森 知永	研究担当
技術補佐員	香川 葵衣	研究担当(令和4年10月1日～)
技術補佐員	細田 真由	研究担当(令和4年12月1日～)

## 【文化財防災プロジェクトチーム】

### ○奈良文化財研究所

研究員	金田 明大	埋蔵文化財センター長
研究員	脇谷 草一郎	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長
研究員	山崎 健	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長
研究員	村田 泰輔	埋蔵文化財センター主任研究員
研究員	大林 潤	文化遺産部建造物研究室長
研究員	島田 敏男	文化遺産部建造物研究室特任研究員
研究員	廣瀬 覚	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第一研究室長
研究員	田村 朋美	都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第一研究室主任研究員
研究員	山本 祥隆	都城発掘調査部主任研究員
研究員	川畑 純	都城発掘調査部主任研究員
研究員	石橋 茂登	飛鳥資料館学芸室長
研究員	清野 陽一	飛鳥資料館主任研究員
研究員	高田 祐一	企画調整部主任研究員
研究員	中村 一郎	企画調整部写真室専門職員

### ○東京文化財研究所

研究員	秋山 純子	保存科学研究センター保存環境研究室長
研究員	犬塚 将英	保存科学研究センター分析科学研究室長
研究員	芳賀 文絵	保存科学研究センター修復技術研究室研究員
研究員	千葉 毅	保存科学研究センター修復技術研究室研究員（令和4年10月1日～）
研究員	久保田 裕道	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長
研究員	二神 葉子	文化財情報資料部文化財情報研究室長
研究員	小山田 智寛	文化財情報資料部主任研究員
研究員	金井 健	文化遺産国際協力センター国際情報研究室長

### ○東京国立博物館

研究員	救仁郷 秀明	学芸研究部長
研究員	和田 浩	学芸研究部保存修復課長
研究員	瀬谷 愛	学芸研究部保存修復課保存修復室長
研究員	佐藤 寛介	学芸研究部列品管理課登録室長
研究員	古川 攝一	学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員
研究員	増田 政史	学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員
研究員	矢野 賀一	学芸企画部企画課デザイン室長
研究員	鬼頭 智美	学芸企画部上席研究員
研究員	楊 鋭	学芸企画部企画課国際交流室長
研究員	河野 正訓	学芸企画部企画課特別展室主任研究員

○京都国立博物館

研究員	尾野 善裕	学芸部長
研究員	羽田 聡	学芸部列品管理室長
研究員	大原 嘉豊	学芸部保存修理指導室長
研究員	降幡 順子	学芸部保存科学室長
研究員	福土 雄也	学芸部保存修理指導室主任研究員
研究員	近藤 無滴	学芸部列品管理室研究員

○奈良国立博物館

研究員	吉澤 悟	学芸部長
研究員	荒木 臣紀	学芸部保存修理指導室長
研究員	内藤 航	学芸部教育室研究員

○九州国立博物館

研究員	河野 一隆	学芸部長
研究員	白井 克也	学芸部文化財課長
研究員	木川 りか	学芸部博物館科学課長
研究員	渡辺 祐基	学芸部博物館科学課研究員





## 令和4年度 文化財防災センター 年次報告書

令和5年4月28日発行

編集・発行

独立行政法人国立文化財機構 文化財防災センター

〒630-8577 奈良県奈良市二条町2丁目9-1

Tel: 0742-31-9056

<https://ch-drm.nich.go.jp/>

製作

株式会社昭和堂

©2023 独立行政法人国立文化財機構 文化財防災センター

